



# 個別の状況に応じたカリキュラムの 編成・実践に関する提案

---

～*Society5.0* を見据えた  
「学びの変革」のアップデート～

令和2年3月  
広島県教育委員会事務局  
個別最適な学び担当

# はじめに

今、私たちは、大きな社会の変革期にいます。

超スマート社会とも言われる「Society5.0」の到来により、人工知能（AI）やビッグデータ等を活用した新たなサービスやビジネスが創出され、私たちの生活がより便利で快適なものになっていく一方で、定型的業務や数値的に表現可能な業務はAI技術により代替可能になるなど、私たちを取り巻く社会構造や雇用環境が大きく変化することが予想されています。こうした社会に対応していくための学校や学びの在り方が、今、改めて問われています。

また、本県では、グローバル化する21世紀の社会を生き抜くための新しい教育モデルの構築を目指して、「広島版『学びの変革』アクション・プラン（平成26年12月）」に基づき、各学校において、全ての児童生徒の主体的な学びを促す教育活動に取り組んでいるところですが、全体指導を基盤とするカリキュラムだけでは、主体的に学ぶことが難しいと思われる児童生徒が一定数いるのではないかと考えています。

そこで、本県では、平成31年4月に「個別最適な学び担当」を新設し、一人一人の子供に寄り添った多様で質の高い学びの実現に向けて、特に義務教育段階における児童生徒の個別の状況に応じた主体的な学び（以下、「個別最適な学び」という。）に関する調査研究を進めてきました。

本提案は、これからの学校や学びはどうあるべきかという視点に基づいて、「個別最適な学び」の実現に必要な観点などについて、現時点における県教育委員会としての考えや今後の取組の方向性を整理したものです。

今後、多様な人々との対話や協働により、県内各地域における「個別最適な学び」の実践事例を蓄積し、教育効果とともに広く県全体で共有することを通して、本県が目指す「学びの変革」を加速化していきたいと考えています。

最後に、本提案の作成に際して御助言等いただきました有識者や関係者の皆様をはじめとして、御協力くださいました全ての方々に、心から感謝の意を表します。

令和2年3月

# 本提案の位置付け・活用のポイント

## ■ 位置付け

本提案は、学習指導要領や先進事例等の調査研究を踏まえ、「個別最適な学び」の実現に必要な観点などについて、現時点における県教育委員会としての考えや今後の取組の方向性を整理したものです。

「手引き」や「提言」ではなく、「提案」、つまり「当事者の立場として考えや意見を出す」という形をとっているのは、これから、皆さんとの双方向のやり取りを通して、本提案を、より実効性のあるものにブラッシュアップしていきたいからです。

今後、県教育委員会・市町教育委員会・学校など、教育に関わる全ての人たちが、子供たちの学びを支える一つのチームとして、本提案を参考とした教育活動を主体的に実践・改善していくことを通して、子供たちの個別の状況に応じた多様な学びの選択肢を提供し、全ての子供たちの「主体的な学び」の促進につなげていきたいと考えています。

## ■ 活用のポイント

「個別最適な学び」の実現に向けては、心の持ち方や考え方など、いわゆるマインドセットが重要となります。そのため、各学校において、本提案をもとに、改めて教育理念を共有したり、自身のマインドセットを振り返ったりするなど、校内研修をはじめ、あらゆる場面で、教職員同士の対話や自分自身との対話を大切にしていきたいと思います。

また、「子供たちを教え導き、一人一人の学びを支援する」という私たちの役割を意識して、できるところから主体的に教育活動をアップデートし、全ての子供たちの「主体的な学び」の実現を目指していきたいと思います。

# I 個別最適な学びの必要性

- ① Society5.0に向けた社会の変化と学びの在り方
- ② 本県の「学びの変革」が目指す姿
- ③ 本県教育の現状分析
- ④ これからの本県教育の方向性
- ⑤ 個別最適な学びの実現イメージ

# ① Society5.0に向けた社会の変化

工業社会から情報社会へ、社会情勢やニーズの多様化に合わせて、産業構造や働き方が大きく転換し、求められる人材像も変化 → そして時代はSociety5.0へ

約100年前



(絵葉書「原 富岡製絲所 繰絲部ノ一部」画像提供：富岡市・富岡製糸場)

現在



(出展：Pexels.com)

- Society3.0 工業社会
- 第2次産業革命
- 大量生産・大量消費（画一的）
- 分業化，規則的に仕事（受動的）

- Society4.0 情報社会
- 第4次産業革命
- 多品種・少量生産（多様化）
- 協働，創造的に仕事（主体的）

# ① Society5.0に向けた学びの在り方

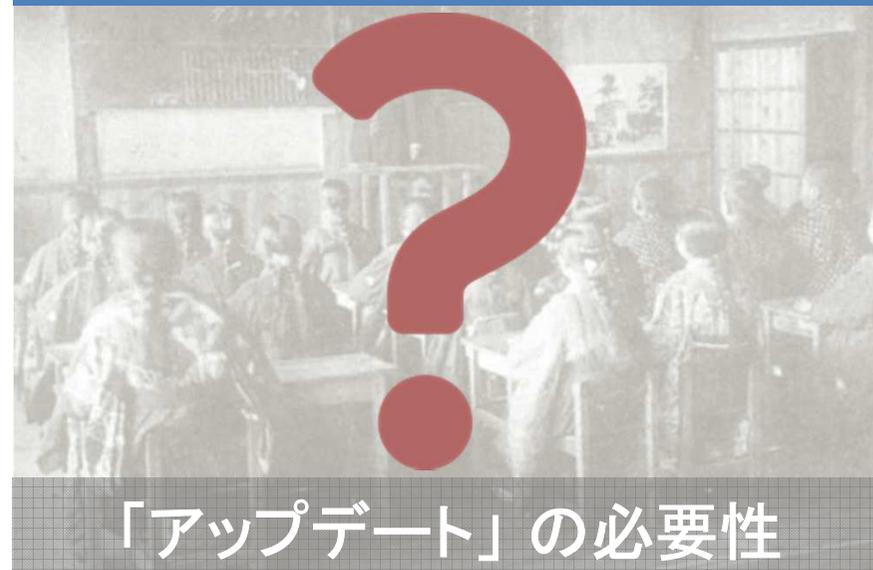
来るべきSociety5.0において活躍できる人材の育成に向けて、国を挙げて、学校・教育・学びの「アップデート」が必要

約100年前



(画像提供：福島県磐梯町教育委員会)

現在



Society 5.0

公正に個別最適化された学びを実現する多様な学習機会と場の提供

共通して  
求められる力

- 文章や情報を正確に読み解き対話する力
- 科学的に思考・吟味し活用する力
- 価値を見付け生み出す感性と力, 好奇心・探究力など

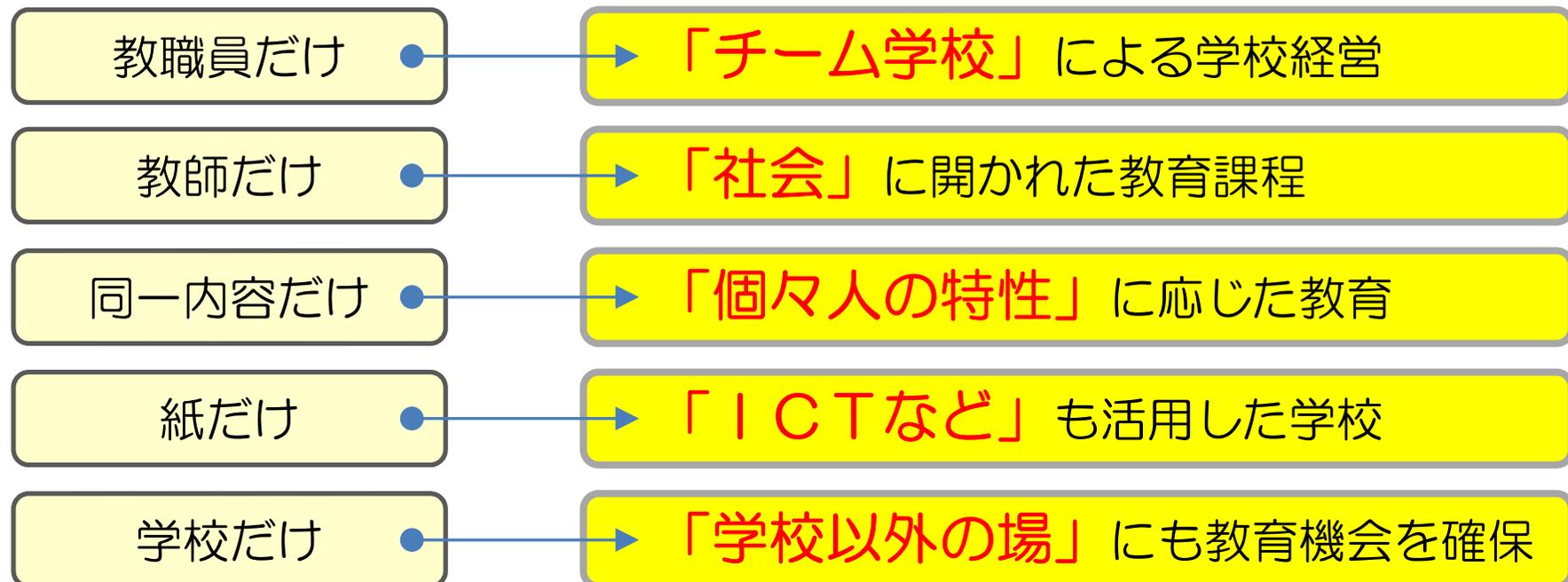
# ① Society5.0に向けた学びの在り方

## ◆ Society5.0に向けた人材育成 ～社会が変わる, 学びが変わる～ (H30.6文科省)

➤ Society 5.0の姿をしっかりと見据えつつ, 決して浮き足立つことなく, **着実に新学習指導要領の理念を実現**することを目指す。

➤ 学校や学びの在り方に関しては,

一元モデル, つまり「〇〇だけ」構造からの脱却が必須



## ② 本県の「学びの変革」が目指す姿

### 《目指す姿》

一人一人が、生涯にわたって 主体的に学び続け、多様な人々と協働して、新たな価値を創造

広島県教育に関する大綱(H28.2)

### 《育成すべき人材像》

広島で学んだことに誇りを持ち、胸を張って「広島」「日本」を語り、高い志のもと、世界の人々と協働して、新たな価値（イノベーション）を生み出すことのできる人材

広島版「学びの変革」アクション・プラン(H26.12)

### 《教育の方向性》

これまでの「知識ベースの学び」に加え、「コンピテンシーの育成を目指した主体的な学び」を促す教育活動（課題発見・解決学習、異文化間協働活動など）を積極的に推進

広島版「学びの変革」アクション・プラン(H26.12)

### 《主な成果指標・目標》

#### 基盤的な学力

全国学力・学習状況調査 ～ 平均正答率トップ県とのポイント差の縮小  
// ～ 正答率40%未満の児童生徒の減少

#### 主体的な学び

「基礎・基本」定着状況調査～「主体的な学び」が定着している(※)児童生徒の増加  
※ 課題発見・解決学習に関する質問項目(15項目)に肯定的な回答をした児童生徒の割合の平均値

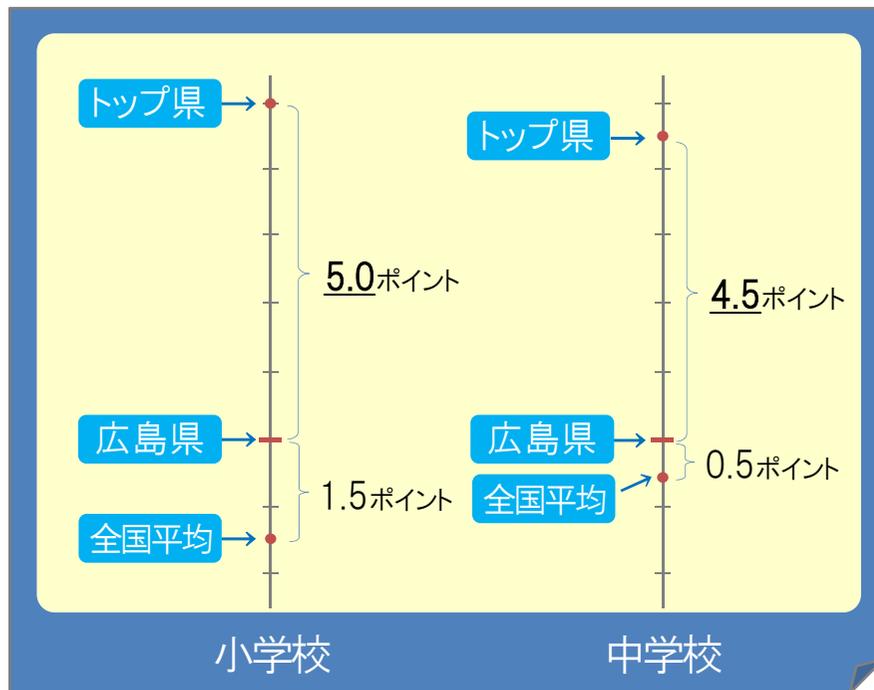
広島県教育委員会主要施策実施方針(H29.2)ほか

### ③ 本県教育の現状分析

#### ◆ 基盤的な学力の定着状況

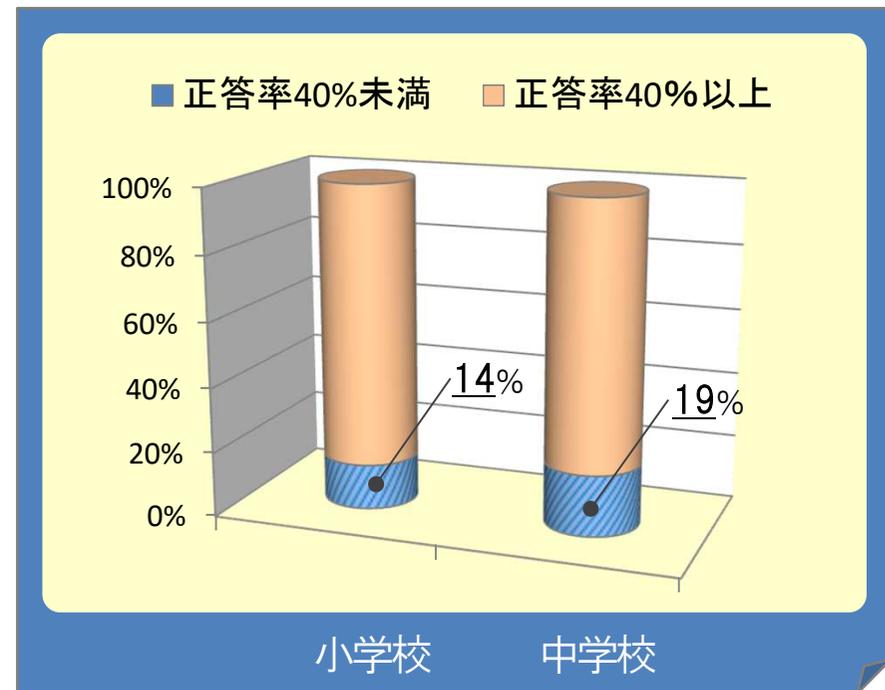
- ▶ 全国学力学習状況調査における平均正答率トップ県とのポイント差は、4～5ポイント  
～ 本県の平均正答率は全国平均を超えており、平均的な児童生徒の基盤的な学力は、概ね定着傾向
- ▶ 同調査における本県の正答率40%未満の児童生徒は、約1～2割存在  
～ 学力に課題のある児童生徒に対して、個別の状況に応じたきめ細かい対応が必要

《平均正答率トップ県とのポイント差》



R1 全国学力・学習状況調査

《正答率40%未満の児童生徒割合》



R1 全国学力・学習状況調査

### ③ 本県教育の現状分析

#### ◆ 主体的な学びの定着状況

- 主体的な学びが定着している児童生徒(※)は、小・中学校とも約7割  
※ 課題発見・解決学習に関する質問項目(15項目)に肯定的な回答をした児童生徒割合の平均値
- 項目別では、情報の収集(③④)、まとめ・創造・表現(⑦⑧)、振り返り(⑩)、体験的な学び(⑭)、探究的な学びのサイクル(⑮)などができていないと感じている児童生徒が多い

#### 《課題発見・解決学習に関する質問項目(15項目)》

項目	質問内容	小学校		中学校	
		肯定的	否定的	肯定的	否定的
課題の設定	① 授業では、解決しようとする課題について「なぜだろう」「やってみよう」と思います。	81%	19%	71%	29%
	② 授業では、解決しようとする課題について、「多分こうではないか」「こうすればできるのではないかと予想しています。	84%	16%	76%	24%
情報の収集	③ 授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。	50%	<b>50%</b>	42%	<b>58%</b>
	④ 授業では、課題を解決するための情報を集める前に、どのような方法だと必要な情報を集めることができるのかを考えています。	60%	<b>40%</b>	50%	<b>50%</b>
整理・分析	⑤ 授業では、調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめています。	73%	27%	55%	<b>45%</b>
	⑥ 授業では、情報を、比べたり(比較)、仲間分けたり(分類)、関係を見付けたり(関係付け)して、何が分かるのかを考えています。	74%	26%	68%	<b>32%</b>
まとめ・創造・表現	⑦ 授業では、自分の考えを積極的に伝えていきます。	64%	<b>36%</b>	61%	<b>39%</b>
	⑧ 授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫しています。	67%	<b>33%</b>	63%	<b>37%</b>
実行	⑨ 授業では、考えたり、提案したりしたことについて、実際に取り組んでいます。	71%	29%	68%	<b>32%</b>
振り返り	⑩ 学習の振り返りをするときは、「どこまで分かったか」、「学習の方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由」を考えています。	70%	<b>30%</b>	68%	<b>32%</b>
	⑪ 学習の振り返りをするときは、「もっと考えてみたいこと」、「もっと調べてみたいこと」、「もっと工夫してみたいこと」などを考えています。	74%	26%	63%	<b>37%</b>
その他	⑫ 普段の生活や学習の中で、これまでに学習した内容や学習の進め方を使っています。	81%	19%	75%	25%
	⑬ 授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。	79%	21%	81%	19%
	⑭ 授業では、実際にものを使ってやってみたり、地域や自然の中で学習したりなどの体験活動をしています。	70%	<b>30%</b>	59%	<b>41%</b>
総合	⑮ 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。	69%	<b>31%</b>	69%	<b>31%</b>
平均値		<b>71%</b>	29%	<b>65%</b>	35%

### ③ 本県教育の現状分析

#### ◆ 主体的な学びの定着と自己肯定感等の相関関係

- 主体的に学ぶことが難しい児童生徒(※)は、小・中学校とも約1割  
※ 課題発見・解決学習に関する質問項目(全15項目)中、肯定的な回答が3項目以下の児童生徒
- 主体的な学びの定着度合い(=課題発見・解決学習に関する質問項目に対する肯定的な回答数)の減少に連動して、自己肯定感や学ぶ楽しさ・できる喜びが明らかに低下  
 ~「主体的な学びの定着」と「自己肯定感」「学ぶ楽しさ・できる喜び」には相関関係がある

#### ≪課題発見・解決学習に関する質問項目(15項目)と自己肯定感等の質問項目の相関関係≫

##### ■ 小学校

肯定的な回答をした項目数 (15項目中)	児童割合	そのうち	自己肯定感		学ぶ楽しさ	できる喜び
			自分には良いところがない	自分の良さは周りから認められていない	自分から進んで勉強をしていない	学習を最後までやりとげて嬉しかったことがない
8項目以上	77% (18,665人)	→	14%	24%	13%	8%
4項目~7項目	15% (3,616人)	→	35%	56%	37%	31%
3項目以下	<b>8%</b> (1,979人)	→	<b>55%</b>	<b>74%</b>	<b>56%</b>	<b>59%</b>

##### ■ 中学校

肯定的な回答をした項目数 (15項目中)	生徒割合	そのうち	自己肯定感		学ぶ楽しさ	できる喜び
			自分には良いところがない	自分の良さは周りから認められていない	自分から進んで勉強をしていない	学習を最後までやりとげて嬉しかったことがない
8項目以上	70% (14,341人)	→	17%	23%	23%	10%
4項目~7項目	18% (3,639人)	→	38%	50%	49%	30%
3項目以下	<b>12%</b> (2,568人)	→	<b>57%</b>	<b>68%</b>	<b>69%</b>	<b>58%</b>

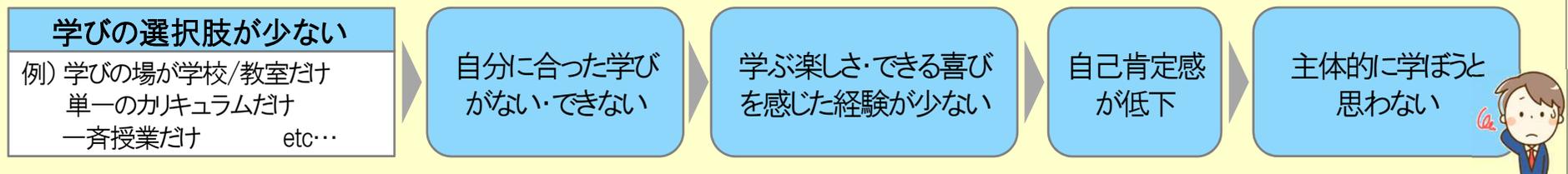
### ③ 本県教育の現状分析

#### ◆ 主体的な学びが定着していない児童生徒の傾向

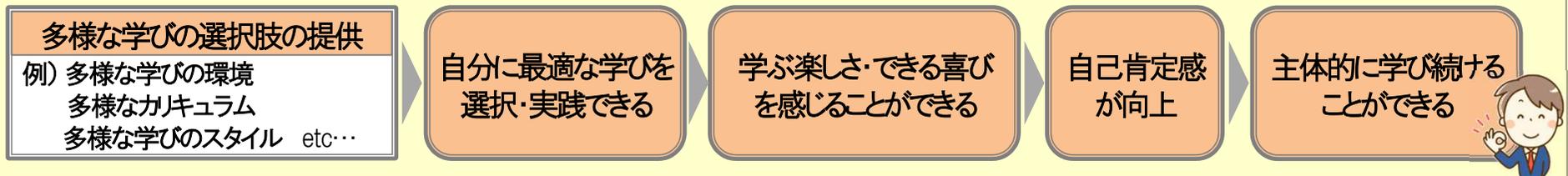
主体的に学ぶことが難しい児童生徒は、自己肯定感が低く、学ぶ楽しさ・できる喜びを感じた経験が少ないという傾向が見られる

#### ◆ 主体的な学びを定着させるための仮説 ～学びの好循環を創り出す～

学びの選択肢が少ないことから、学ぶ楽しさ・できる喜びを感じた経験が少なく、自己肯定感も低いのではないか!?



多様な学びの選択肢を提供することにより、学びの好循環を創り出す!

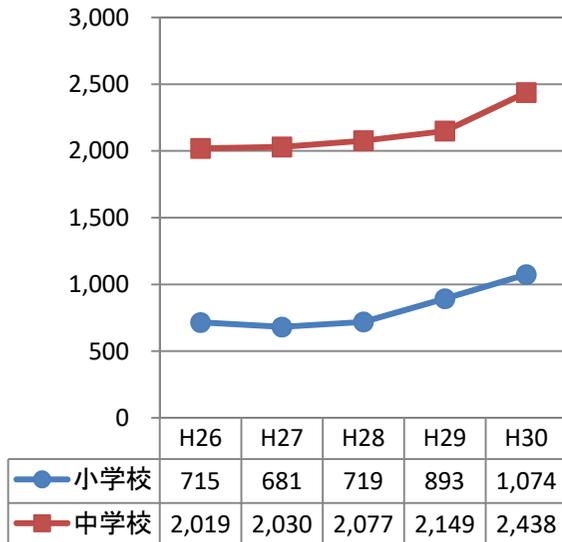


# ③ 本県教育の現状分析

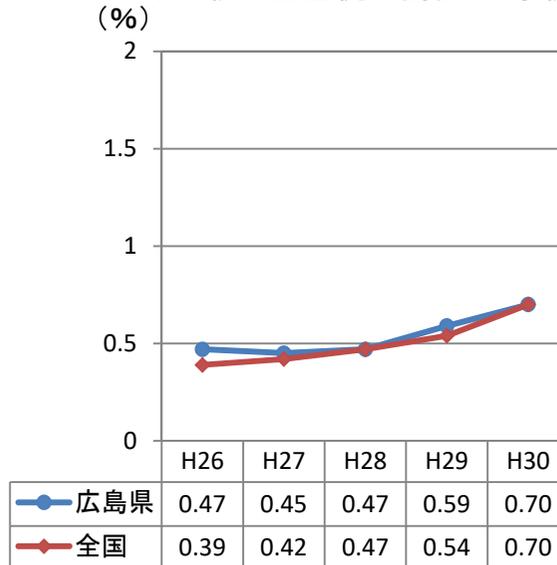
## ◆ 不登校児童生徒の状況

- 不登校児童生徒数（平成30年度） 小学校1,074人 中学校2,438人  
 ～ 本県の不登校児童生徒数は、増加傾向
- 全児童生徒に占める不登校児童生徒の割合（平成30年度） 小学校0.70% 中学校3.21%  
 ～ 本県の不登校児童生徒の割合は、増加傾向

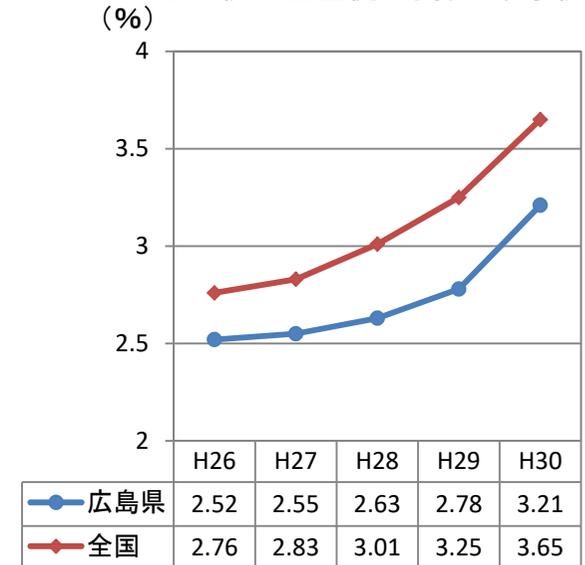
(人) 広島県の不登校児童生徒数



不登校児童生徒の割合(小学校)



不登校児童生徒の割合(中学校)



H30 広島県における生徒指導上の諸課題の現状  
 H30 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査

## ④ これからの本県教育の方向性

- ◆ 多様な学びの選択肢の提供により, 全ての児童生徒の「主体的な学び」を実現

現状

《選択肢が少ない》

〇〇だけ



物足りない...



分からない...

不登校や主体的に学べていない児童生徒

目指す姿

《多様な学びの選択肢》

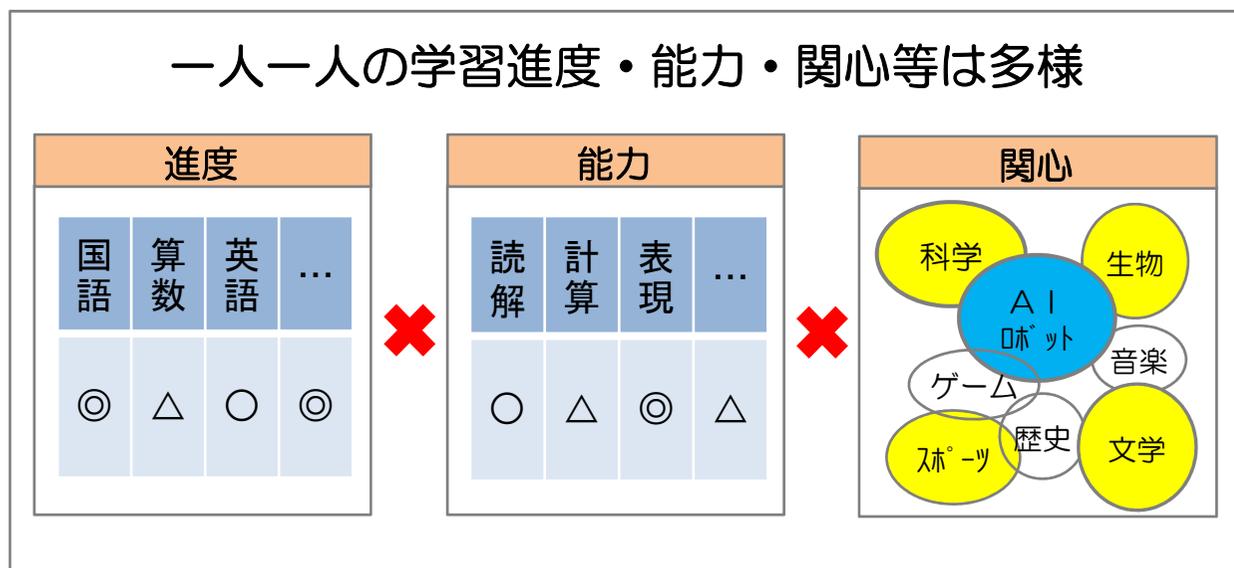
多様な学びの環境・カリキュラム・スタイル...



## ⑤ 個別最適な学びの実現イメージ

### ◆ 個別最適な学びの実現とは…

～児童生徒一人一人の学習進度や能力、関心等に応じて、多様な学びの選択肢を提供することで、児童生徒が、基盤的な学力の習得も含め、主体的に学び続けることができる



### 多様な学び場（学校内・外）

～児童生徒に多様な学びの選択肢を提供～

一斉

探究

個別

協働

ICT

プリント

etc…

### 例① イエナプラン教育

- ・自分で学習計画
- ・異学年学習  
～教え合い、学び合い
- ・教員の個別サポート
- ・ワールドオリエンテーション

### 例② ICTの活用

- ・学習ログ蓄積分析  
～個別対策、つまずき解消
- ・学びのポートフォリオ  
～指導と評価の一体化
- ・外部との連携  
～遠隔授業等

## Ⅱ 個別最適な学びに必要な観点

ここまで読まれて、個別最適な学びの必要性を感じてもらえましたか。

ここからは、個別最適な学びに必要な観点をお示しします。

皆さん自身の実践を振り返りながら、個別最適な学びの実現に向けて、どのような取組ができるのか、一緒に考えてみましょう。

# 個別最適な学びに必要な観点

観 点		内 容（対話のポイント）	頁
①	マインドセット	・学びの主体は子供たちであるという「学習者基点」の意識をもって教育活動を行っていますか。	P18
②	学びの環境	・子供たちにとって、安心・安全で居心地のよい、多様な学びの場づくりをしていますか。	P24
③	学びの内容	・実社会で汎用的に活用・発揮できる概念等の形成を意識した内容になっていますか。 ・学校外の多様な主体と連携・協働し、子供たち自身が当事者意識をもってリアルに探究する内容になっていますか。	P31
④	学びの進め方	・子供たちの学びの自立化に向けた学習サイクルの定着を意識していますか。 ・一人一人の学習進度や能力，関心に応じた学びの場面を設定していますか。	P39
⑤	学びの集団	・多様な子供たち同士が関わり合う柔軟性のある集団づくりをしていますか。 ・互いの存在や違いを認め合う，居心地のよい集団になっていますか。	P43
⑥	学びの評価	・子供たちの学びのプロセスを捉え，肯定的なフィードバックをしていますか。 ・子供たちが学びを振り返る機会を設定し，メタ認知を促進していますか。 ・各学校で育成すべき資質・能力の評価をしていますか。	P48
⑦	校務支援 チーム学校	・日常的に業務の効率化を意識して実践し，子供たちに向き合う時間を確保していますか。 ・一人一人の学習や生活の状況等を全教職員で共有し，チーム学校として，個に応じた支援をしていますか。	P53

# 個別最適な学びに必要な観点の関係性

- 教育理念と具体的な方策は密接に関連しており、具体的な方策を実施する前に、まずは対話を通して理念の共有や自身のマインドセットを振り返ることが重要
- 校務支援システム等を効果的に活用しながら、「チーム学校」として、子供たち一人一人の個に応じた学びを支えていくことが必要

理念

## マインドセット

(経験や教育などによって形成される心の持ち方・考え方の枠組み)

具体的な方策

学びの  
環境

学びの  
内容

学びの  
進め方

学びの  
集団

学びの  
評価

下支え

校務支援 / チーム学校

# ① マインドセット

まず始めに、あなたの学校の教育理念等について振り返り、周りの人と対話してみましょう。

## ◆ 学校の理念(教育目標等)

## ➤ どんな子供を育てたいのか？

## ◆ 現状(課題)

## ➤ なぜそんな子供を育てたいのか？

## ◆ 課題解決のための方策

## ➤ そのために何をする(している)？

※ 全て記入したら、縦と横の関係を見比べながら、対話を進めてください。

# ①マインドセット

次に、あなた自身の個別最適な学びに関する考え方について振り返り、周りの人と対話してみましょう。

◆ 当てはまる項目にチェックを入れてください。

項目	そう思う	やや そう思う	あまり 思わない	思わない
▪ 私たちは、多様性を認め、多様な子供たち同士の対話や協働を尊重すべきである。				
▪ 私たちは、全ての子供たちは学ぶための力をもっていることを信じ、学びを子供たちに委ねるべきである。				
▪ 学びの主体は子供たちにあり、その学びを支え、励ますのが、私たちの役割である。				
▪ 私たちは、一人一人の学習進度や能力、関心等に応じた学びの場を提供すべきである。				

## ① マインドセット

- ◆前ページに示した項目は、「個別最適な学び」に近い考え方です。あなたはいくつ当てはまりましたか。（\_\_ 項目 / 4項目）
- ◆前ページに示した項目について、既に学校で取り組んでいるものも含めて、どのような取組が考えられますか。

- 
- 
- 
-

## ① マインドセット（まとめ）

子供たちの主体的な学びの実現に向け、全ての教職員が、学習者基点に立った対話を通して、「何のために教育をするのか」、「どんな子供を育てたいのか」など、各学校の教育理念を共有していくことが重要です。

また、子供たちの多様性を尊重し、子供たちの可能性を信じ、子供たちに学びを委ねるなど、皆さん一人一人が、「しなやかなマインドセット」で多様な教育活動を進めていくことが大切なのではないのでしょうか。

学習指導要領にも、児童生徒の興味・関心を生かした学習や個に応じた指導について明記されているように、「個別最適な学び」は、教育の本質的なものです。

このような「個別最適な学び」を実践していくための具体的な方策について、次ページ以降の「事例」を参考にしながら、対話してみましょう。

# 事例の活用に当たって

「個別最適な学び」の先進的な実践事例を示しています。各事例の背景にある教育理念やマインドセット等（なぜこういう方策をとっているのか）について対話することを通して、自校の教育をアップデートするための視点を見いだし、取組を検討する際の参考にしてください。

## 事例の見方

➤ 学校名等  
詳細は巻末の「視察先一覧」を参照

➤ 実践の特徴とねらい  
観点に沿った実践の特徴とねらいを端的に表示

➤ 実践のポイント  
実践のポイントと概要及び写真を掲載

➤ 参考文献  
詳細は巻末の「引用・参考文献一覧」を参照

### ➤ 観点名

16ページ「個別最適な学びに必要な観点（イメージ）」に示す7つの観点のうち、「マインドセット」を除く観点名を表示

#### ● 大日向小学校（イエナプランスクール）

学びの環境

～子供たちと共に創り出す、自然に対話が生まれる学びの場～

#### ●ポイント1●

リビングルームのような教室

◆みんなで集まるサークルスペースを設置している。このスペースは、朝のサークル対話や小グループでのインスタレーションに使われている。中央にラグが敷かれていて自立学習時に、椅子を机代わりにして学ぶこともある。

◆教室内は、グループテーブルや作業テーブルがあり、必要に応じて自由に動くことができる空間が設けている。ろうか側はガラス張りになっているため、教室と廊下の一体感があり、廊下も教室の延長として機能している。



大日向小学校 サークルの様子

#### ●ポイント2●

子供たちとグループリーダー（担当教員）が一緒になって、教室を自らデザイン

◆教室の壁の色やサークルになって座る場所、本棚やコンピュータの置き方など、教室ごとに違っている。こういう内装も、学年初めに、グループリーダーと子供たちが決めていく。こうした活動の中で、子供同士のかわり合いが生まれ、子供たちには 学級に主体的に関わろうとする意識が生まれる。



大日向小学校の居心地

参考文献：「オランダの個別教育はなぜ成功したのか」(平凡社) 16

## ② 学びの環境

- 子供たちにとって、安心・安全で居心地のよい、多様な学びの場づくりをしていますか。

事例	概要
SSR(スペシャルサポートルーム)	自分のペースで過ごし、学べる安心安全な空間
学校図書館リニューアル	子供たちの知的好奇心を喚起する開かれた学びの場
大日向小学校	子供たちと共に創り出す、自然に対話が生まれる学びの場
ドルトン東京学園	多様な学びや交流が生まれる仕掛けのある空間づくり
東京シューレ葛飾中学校	不登校傾向の子供たちが安心して過ごせる場づくり 不登校傾向の子供たちの実態に応じた学びの場づくり

# SSR (スペシャルサポートルーム)

～自分のペースで過ごし、学べる安心安全な空間～

## ●ポイント●

子供たちが気軽に使えるサロンのような多様なスペース

仲間と話をしながら  
学習できる  
スペース

柔らかな  
優しい雰囲気  
気のクロス



必要なときに  
各教科等の資料に  
アクセスできる書棚

衝立を使用して、  
周りからの視線を遮断  
した個々のペースで  
学習できるスペース



SSR専用の出入口

～個に応じた学習支援～



異学年でミシンを  
使ってバッグを製作



子供同士が相談して  
同じ時間に学習できる  
ように時間割を調整

～個々の興味・関心に応じた作品掲示～



自ら作品掲示を  
デザインすることで  
自己有用感が向上



コーディネーターが  
子供の興味を聞き取り、  
創作意欲を喚起

# 学校図書館リニューアル

～子供たちの知的好奇心を喚起する開かれた学びの場～

## ●ポイント●

明るく、落ち着く、わくわくする「知」の拠点

◆教職員・P T A・児童生徒など、学校図書館に関わる全ての人々が連携・協働して、子供たちの自主的・自発的な学習活動・読書活動を促進する居心地のよい空間を創出

### 表紙が見える・ゆとりのある本棚



子供たちの知的好奇心をくすぐり、思わず本を手にとってみたくなるような工夫

### 居心地のよい学びの場



カーペットやソファなどの設置による安らぎのある環境

### オープンなエントランス



いつでも誰でも気軽に利用したくなる開かれた図書館

### わくわくする特設コーナー



新刊や地域ならではの本などをお洒落に配架

### 明るい印象の空間づくり



壁にカラフルな布を貼る演出

### 学習スペースも充実



楽しく教え合い・学び合い

## ● 大日向小学校（イエナプランスクール）

～子供たちと共に創り出す，自然に対話が生まれる学びの場～

### ● ポイント1 ●

#### リビングルームのような教室

- ◆みんなで集まるサークルスペースを設置している。このスペースは，朝のサークル対話や小グループでのインストラクションに使われている。中央にラグが敷かれていて自立学習時に，椅子を机代わりにして学ぶこともある。
- ◆教室内は，グループテーブルや作業テーブルがあり，必要に応じて自由に動くことができる空間が設けている。ろうか側はガラス張りになっているため，教室と廊下の一体感があり，廊下も教室の延長として機能している。



大日向小学校 サークルの様子



大日向小学校 の教室環境

### ● ポイント2 ●

#### 子供たちとグループリーダー（担当教員）が一緒になって，教室を自らデザイン

- ◆教室の壁の色やサークルになって座る場所，本棚やコンピュータの置き方など，教室ごとに違っている。こういう内装も，学年初めに，グループリーダーと子供たちが決めていく。こうした活動の中で，子供同士の関わりが生まれ，子供たちには学級に主体的に関わろうとする意識が生まれる。

## ● ドルトン東京学園

～多様な学びや交流が生まれる仕掛けのある空間づくり～

### ●ポイント●

学校コンセプトは、「自由に学ぶ。自由にコミュニケーションする。」

- ◆子供たちの興味の芽を育てるように、創造性を存分に発揮できるように、いつでも、どこでも、誰とでも学び、コミュニケーションできる空間づくりを目指している。



#### ラーニングコモンズ

「多様な学びや交流が生まれる仕掛けのある校舎」の中心となる場所で一人でも本を読んだり、協働で課題に取り組んだり、様々な探究ができる。



#### 和のラウンジ

様々な形に組み替え可能な畳の小上がりを並べた和テイストのラウンジ。



#### 教室315（特別教室）

片面ガラス張りの半円型の教室。机やいすはなく、色とりどりのクッションが置かれた空間で、大きなホワイトボードに自由な発想が描くことができる。

# 東京シューレ葛飾中学校

～不登校傾向の子供たちが安心して過ごせる場づくり～

## ●ポイント●

子供たちが自分のペースで活動できる多様な部屋

### ◆でこぼこルーム

じゅうたん敷きになったオープンスペース。でこぼことは、巨大な積み木を意味している。子供たちは、その積み木を用いて、壁をつくったり椅子にしたりと工夫しながら自分たちの過ごしやすい空間をつくっている。でこぼこルームは、葛飾中学校の人気スポットになっている。



でこぼこルーム

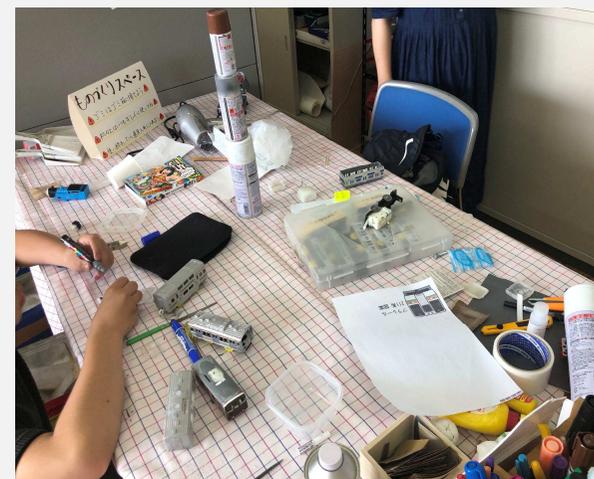
### ◆個人学習室・技術室

一人一人の仕切りがあり、落ち着いて学習することができる個人学習室や工作等に必要の機材を備え付けた技術室など、子供たちが自分のペースで活動することができる場づくりが行われている。

子供たちが、ペンキを塗ったり部屋の使い方や設備を変更したりと改善も行っている。



個人学習室



技術室

# 東京シューレ葛飾中学校

～不登校傾向の子供たちの実態に応じた学びの場づくり～

## ●ポイント●

子供たちの進度や能力に合わせた自作プリントによる学び直しの機会の確保

### ◆漢字学習

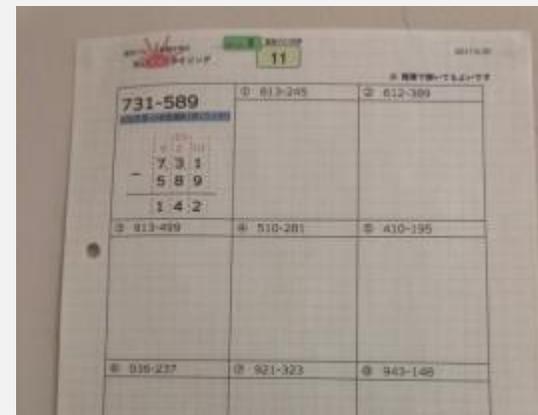
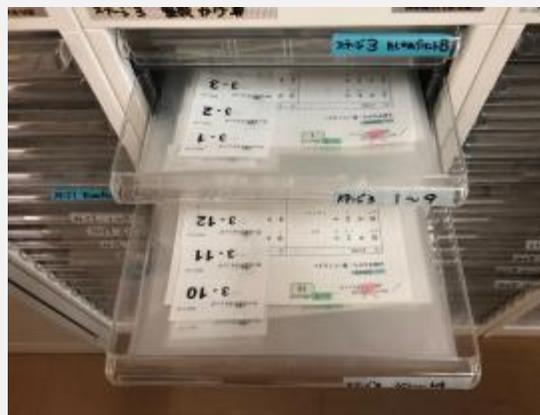
小1～中3までの9段階の漢字教材を準備。小1～小6の6段階はオリジナル教材を作成。教員が作成したプリントに生徒が自主的にイラストを加えるなどして、取り組みやすいように改良を重ねている。

朝の10分（月・水・金）を漢字タイムとしている。

### ◆計算学習

小学校の「整数・小数・分数」の四則をカバーしたオリジナル教材を作成。全部で20ステージに分け、各ステージ20～50枚のプリントを段階的に取り組めるように用意。

朝の10分（火・木）を計算ライジングの時間としている。



### ③ 学びの内容

- 学校外の多様な主体と連携・協働し，子供たち自身が当事者意識をもってリアルに探究する内容になっていますか。
- 実社会で汎用的に活用・発揮できる概念等の形成を意識した内容になっていますか。

事例	概要
東大ROCKET in 広島	日常生活に紐づく活動から，教科横断的に学ぶ
上越市立大手町小学校	自己決定を大切に，子供たちと決めたことをリアルに探究
金沢大学附属小学校	本物との出会いから子供のやりたいを引き出す単元設計
大日向小学校	カリキュラムの中核に位置付くワールドオリエンテーション
東京インターナショナルスクール	国際バカロレア初等教育プログラム(PYP)の実践
聖ヨゼフ学園小学校	国際バカロレア初等教育プログラム(PYP)の実践
東京学芸大学附属大泉小学校	国際バカロレア初等教育プログラム(PYP)を取り入れたカリキュラム開発

※ 巻末参考資料(P.60)の「単元計画や授業の改善の視点」(広島県教育資料)も参考にしてください。

## 東大ROCKET in 広島

～日常生活に紐づく活動から，教科横断的に学ぶ～

### ●ポイント1●

学習者の動機付けを高めていく  
魅力的な活動のデザイン

#### ◆図書館×百貨店

探偵として，秘密裏にミッションを遂行



調べろ！君は  
探偵になれるか！？

### ●ポイント2●

自ら没頭していく問いの設計

#### ◆ミッション（問い）

磁器と陶器の違いを明らかにせよ！  
マンボウ貝のブローチを探せ！

－教科との関連（例）－

小5，6（国語）：学校図書館などの活用

小5，6（図工）：生活の中の造形

中3（社会公民）：経済活動の意義

#### ◆饅頭工場×精米工場

科学者として，新たな商品を開発



饅頭を  
解剖して食せ！

#### ◆ミッション（問い）

小豆を使って銀箔の饅頭を新規開発せよ！  
饅頭1個に使われる小豆の個数を暴け！

－教科との関連（例）－

小5，6（家庭）：楽しく食べるための日常の食事の仕方

小5（算数）：単位数あたりの大きさ，割合，百分率

中学（理科）：植物のからだの基本的なつくりとはたらき

# 上越市立大手町小学校

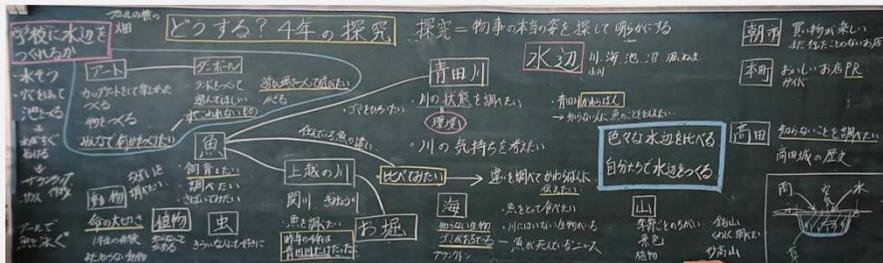
～自己決定を大切に，子供たちと決めたことをリアルに探究～

## ポイント

「自己決定—没頭（体験）—探究—自己表出」のサイクルで1つのテーマを徹底的に探究する（年間140時間）

### ◆自己決定することで学ぶ責任をもつ

4月の初め，探究で何をしたいのか，探究で何を学ぶのかを，みんなが納得するまで話し合う時間を設けている。（4～6時間）



### ◆体験活動に没頭する

自分たちで決めたことに，じっくり没頭する時間を設けている。4年生「比べて発見 わたしたちの水辺」では，校庭に穴を掘り，「多くの生き物が幸せに暮らせる水辺」をめざして，ビオトープづくりを行っている。



大手町小学校では，体験と言語の相互作用によって，自分自身を自覚し，自分の在り方を考えるために，体験後には必ず書く活動を位置付けて，個々の内省を促している。

### ◆体験活動から生まれた問いを探究する

地域の川で捕まえた生き物を調べて，ビオトープに入れる活動を行う中で，「外来種で肉食であるアメリカザリガニをどうするのか」という問いが生まれ，議論となる。ザリガニを水辺に入れないと判断した後も，川で生き物を捉える度に，「在来種で肉食のドンコはどうするか」「魚は食べたり食べられたりする生き方をしているのに，私たちが守りたい魚だけ守ることは，魚にとって本当に幸せなのか」といった問いが生まれ，「生態系とは何か」という本質的な問いへと探究が深まることとなった。

### ◆自己表出を通して，問いの一般化をはかる

探究してきたことをもとに自分で提言したいことを決めポスターにまとめ，仲間とポスタートークを行う。多くの問いについて，議論を重ねることで，個別的な問いが一般化されることを目指す。

# 金沢大学附属小学校

～本物との出会いから子供のやりたいを引き出す単元設計～

## ●ポイント●

その道のプロと協働して社会に参画・当事者意識の醸成

### ◆学習の中で社会人とつながり，社会に参画する場面を設定

【探究テーマ】金沢の空き家問題にイノベーションを！

～ 築90年の町家（空き家）において，住む以外の活用策を考え，実現する ～

【ハイライト】町家の活用策を考えていた児童は，ある日，日本文化の体験型観光を手掛ける社長に出会う。

社長から町家の2階の活用策の検討を任された児童は，そこを伝統文化体験の場に再生すべく，現実社会を舞台にしたリアルなプロジェクトを，自分事として主体的に進めていく。

### ◆1年間の流れ（3・4学年 総合的な学習の時間）

内容	備考
町の「？」を見つける	児童は「空き家の問題点」に注目
「？」を調査し，専門家に聞く	役場の空き家対策担当者，建築家など
課題解決の先進事例を探す	町家を再生して活用している人にインタビュー
社長との出会い → 良いアイデアなら採用	アイデアの条件 ～地元の人が好きになる，古い良さを生かす
アイデアの検討 → 社長にプレゼン	採用のポイント ～金沢らしさ，オリジナル性，ニーズの大きさ
採用案に係るプロとの出会い	金沢の伝統工芸のプロ ～加賀繻，染物，和菓子，金沢唐紙など
プロと協働して伝統文化体験の企画案を具体化	本気で関わるプロとのプレスト ～体験内容・時間，材料・デザイン，作り方，費用等
具体的な企画の実行	準備物等の制作，体験イベントの開催

### ◆本気で関わるプロとの協働



# 大日向小学校（イエナプランスクール）

～カリキュラムの中核に位置付くワールドオリエンテーション～

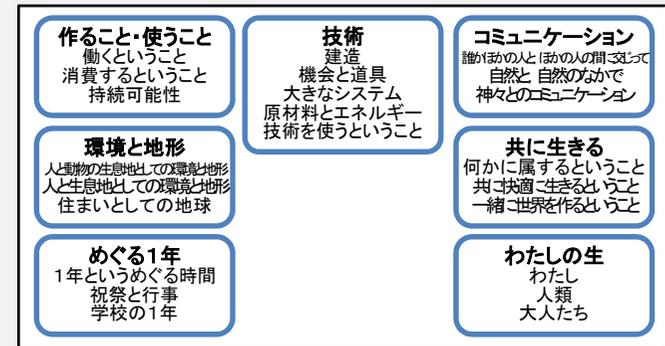
## ●ポイント●

各教科の学びをつなぐ，テーマに基づく探究学習のデザイン

### ◆学校全体で一つのテーマのもとで探究する

子供たちの身の回りで起きる経験を七つの分野に分け（右図参照）学校全体で一定期間（3～4週間程度），いずれかの分野の一つのテーマを立てて，探究学習を行っている。

テーマが決まると，その時期は教科教育においても，そのテーマに可能な限り関連付けるようにしている。（カリキュラム・マネジメント）



### ◆ワールドオリエンテーションの進め方（ヤンセンの自転車モデル）

右に示すヤンセンの自転車モデルは，科学のプロセスを示しておりこのプロセスを繰り返すことで，子供たちは探究の仕方を学んでいく。

- ステップ1：様々な方法を駆使して，子供たちの好奇心を刺激する。**  
 ステップ2：何らかのテーマについての子供たちの問いを集める。  
 ステップ3：出てきた問いを整理し，担当する役割を分担し，探究の計画を立てる。  
 ステップ4：ファミリーグループ（クラス）の仲間に報告するための準備をする。  
 ステップ5：探究の結果をみんなと共有する。  
 ステップ6：探究の成果を振り返り，まとめ，保管する。  
 ステップ7：まだ取り扱っていない目標に向かって，新たな探究の計画を立てる。

#### 【大日向小学校の実践】：ステップ1

下学年の秋見つけでは，アメリカセンダングサの種で遊んでいた子が，活動を振り返りの中で，「この種は種の保存のために，人間にひつつくようになっている」と発言すると，他の子が「種には，動物が運ぶもの，風が運ぶもの，自分自身で飛ばすものがある」「この草は，けもの道に多く生えている」など発言が続いた。さらに，そこから，「種が先なのか，植物自体がそこにあったのか」といった発言が続き，「生命はどう生まれたのか」という問いが生まれた。秋見つけの活動が刺激になり，問いが生まれた実践である。



# 東京インターナショナルスクール

～国際バカロレア初等教育プログラム（PYP）の実践～

## ●ポイント●

教科の枠を越えた「概念探究型のユニット（単元）」づくり

校内に概念探究型のユニット一覧が掲示されている。

- ◆右に示す六つのテーマを主体的に探究していくための教科融合型の学習ユニットを作成する。（右下の例参照）
- ◆子供たちは、1ユニット当たり6週間、年間6ユニットを探究していく。
- ◆こうした教科融合型の学習ユニットは、単なる教科の枠を越えて、自分に関わりのある事柄に気付き、それらを関連付け統合していく力を育てることにつながる。

- ◆教室には、右写真のように探究のユニットが可視化できる掲示物がある。



### 六つのテーマ

- ①自分自身について
- ②私たちの置かれている場所や時代について
- ③自己の表現方法について
- ④すべてのことはどのように機能しているかについて
- ⑤社会を体系付ける方法について
- ⑥地球に共存する術について

### ユニットづくりの例

「全てのことはどのように機能しているかについて」のユニットメインとなる知識領域として「科学的視点」と「社会的視点」とした後に、「天災」というサブテーマを設定する。

そのサブテーマを探究していくために、「科学的視点」では自然災害を引き起こす気候の仕組みなど、「社会的視点」では自然災害が私たちに与える影響などについて学んでいく。

各ユニットの中で、こうしたサブテーマをいくつか設定しながら学んでいく。

# ● 聖ヨゼフ学園小学校

～国際バカロレア初等教育プログラム（PYP）の実践～

## ●ポイント●

### セントラルアイデア（身に付けてほしい考え方）に迫る「探究型概念学習」

- ◆児童が自ら考え、自ら答えにたどりつく「探究型概念学習」に取り組んでいる。各ユニットには、セントラルアイデア（身に付けてほしい考え方）が設定している。
- ◆小学校の探究プログラムでは、調べる、発表することを繰り返し、学習を深めていく。6年時には1年かけて行うエキシビジョンが設定されている。
- ◆小学校で得た学びを土台に中学校・高等学校へつなげていく。（12年間を通した探究プログラム）

#### 1年生Unit 5

#### Who we are ～私たちは誰なのか～

<セントラルアイデア>

私たち一人ひとは愛されている存在である

このユニットでは、「愛」「愛する」「愛される」について探究している。

自分の生まれた時のことをおうちの人にインタビューしたり、妊婦さんにおなかには赤ちゃんがいるということはどういうことなのかなどを聞かせてもらったりする活動を通して、一人ひとりが愛されていることを知ることを目指している。

St. JOSEPH'S Primary School 2020

Unit 03  
教科融合テーマ: Sharing the planet  
セントラルアイデア: 生きものは互いにつながっている

Unit 04  
教科融合テーマ: How we express ourselves  
セントラルアイデア: 変幻自在な想像力が創造力を広げる

Unit 05 (highlighted)  
教科融合テーマ: Who we are  
セントラルアイデア: 私たち一人ひとは愛されている存在である

Unit 06  
教科融合テーマ: How we organize ourselves  
セントラルアイデア: わたしたちの生活は人のほたらきによって支えられている

Unit 02  
教科融合テーマ: How the world works  
セントラルアイデア: 真実を愛すれば、能力が広がる

Unit 01  
教科融合テーマ: Where we are in place and time  
セントラルアイデア: 身のまわりには、無数に「1(塊)」と「7(周期)」がある

1年生の探究プログラム例

1年生の時間割 ※毎年の1年生のものですが、

時 間	8:10	日 次	休 日	休 日	休 日
朝の礼拝	8:15	読書	読書	読書	読書
1 時間目	8:25-9:20	国語	体育	国語	国語
2 時間目	9:30-10:15	英語	英語	国語	算数
3 時間目	10:25-11:20	算数	国語	体育	国語
4 時間目	11:30-12:15	音楽	算数	国語	算数
昼 食	12:25-12:45	昼食			
5 時間目	12:45-13:15	昼休み			
6 時間目	13:15-14:00	算数	探究	探究	探究
7 時間目	14:10-14:55	探究	探究	探究	探究
終礼、清掃 最終下校 15:50					

授業から時間回家までの場合、最終下校は14:55です。

探究の時間が週当たり6時間設定されている。

～国際バカロレア初等教育プログラム（PYP）を取り入れたカリキュラム開発～

### ●ポイント●

## 社会，理科，生活科，総合的な学習の時間を統合した「探究科」の創設

#### 【探究科の概要】

- ・時数は、各学年の社会科，理科，生活科，総合的な学習の時間の時数を合計した時数となる。  
（1年生102時間，2年生105時間，3年生230時間，4年生265時間，5年生275時間，6年生280時間）
- ・年間6単元（PYPを参考に学校で設定している6つの領域1単元ずつ），6年間で36単元の構成となる。

#### 【実践事例】 4年探究科

「探究のテーマ」と育みたい価値観・意味の形成

「探究のテーマ」 「水に流す×心=○」	
<b>目指す意味の形成</b> 地球全体が豊かな営みを続けていくために、一人一人の行動や意識を見直し、地球環境を大切にしたい水の使い方や人間と生物とのかかわり方について児童が自分なりに意味を形成していく。	
<b>素材</b> 下水道の仕組みと水再生センターの役割 水の循環 水と人間や生き物とのかかわり 水の社会的問題 等	<b>育みたい価値観</b> 地球環境を大切にしたい水活用を進めていくことで、人間と生物、地球全体が豊かな営みを続けていくことが大切であると考えられる地球共生の価値観。

#### 指導計画

- 第1次：「探究のテーマ」と出会い，意味の形成と問いの設定  
下水道の仕組みや水再生センターの役割，水に関する社会的な問題等【社会科】  
水の循環，生き物の生態と水や環境との関係【理科】（20時間）
- 第2次：人間と生物，地球との共生について考える【個人追究】（12時間）
- 第3次：自然や人間との繋がりを考えて，みんなに調べたことを発信する（13時間）

#### ◆子供の考えが広がる「探究のテーマ」の設定

個人探究を続けてきた子供たちは、「探究のテーマ」について様々な解釈をするようになっていた。「水に流すとは、人が海などにゴミを流すということ、そして、心はそれをやめようという気持ち。だから、やめようという気持ちをかけると、海もきれいになり、○になる。」と発言する子がいれば、「○というのは循環を意味していて、人の心によって、水に流すものは変わるため、環境はいいものにも悪いものにもなる」と発言する子も。他にも、「○はゼロではないか」「なぜ、たし算ではいけないのか」といった発言も。

子供の考えが広がるテーマだったため、こちらの想定を越える解釈が出てきて、「探究のテーマ」の意味について深く考察していた。



#### ◆一人一人の意味の形成を丁寧にみとる

授業前に配付された「意味の形成履歴シート」を見ると、一人一人の「探究のテーマ」についての解釈が、プロセスを追って記録しており、子供たちが常に「探究のテーマ」を意識して、学びを進めていることにつながっている。

## ④ 学びの進め方

- 子供たちの学びの自立化に向けた学習サイクルの定着を意識していますか。
- 一人一人の学習進度や能力，関心に応じた学びの場面を設定していますか。

事例	概要
千代田区立麴町中学校	学習ログの蓄積・活用による学びの個別最適化
東浦町立緒川小学校	個性化教育，単元内自由進度学習の実践
大日向小学校	自立学習を中心とした授業(ブロックアワー)の実践

# 千代田区立麹町中学校

～学習ログの蓄積・活用による学びの個別最適化～

## ●ポイント●

### A I 型タブレット教材を活用した自立学習

◆数学科の基礎クラスでA I 型タブレット教材 Qubenaを活用した自立学習を実施  
～授業開始と同時に個々に学習をスタート

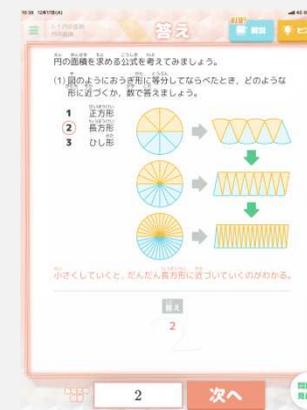
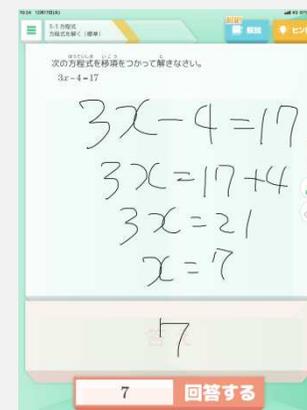


◆教員用の管理画面に生徒が解いている問題の正誤や回答時間等のデータがリアルタイムで表示  
～教員はそれを活用して個別の支援を実施



◆Qubenaの特徴 (<https://qubena.com>) ※対応教科：算数・数学

- ・ノートと同様にペンを使って手書きで学習が可能  
～自動の文字認識，正誤判定機能，画面の2/3はメモ欄
- ・生徒の誤答データ等からA I が間違いの原因を自動で解析  
～生徒のつまづき解消に最適な問題を自動で出題
- ・アニメーションによる解説やヒントが充実  
～学び直しから先取り学習まで，進度・能力に応じた学習が可能

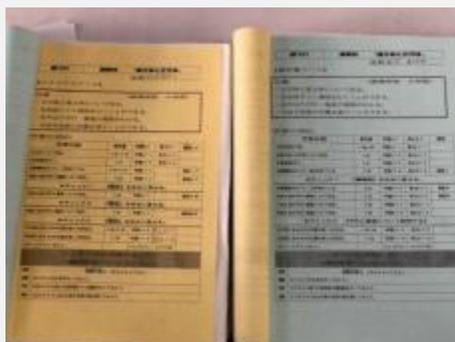


～個性化教育，単元内自由進度学習（週間プログラム）の実践～

### ●ポイント●

教員の役割は，教えることよりも，むしろ，子供たちを支えること

- ◆教員の役割は，学習内容を教えることではなく，子供たちが自ら学んで知識を習得していく過程を手助けするものとしている。
- ◆子供たちは，自分の興味関心に応じて学習コース（学習方法）を選択し，コース別の学習の手引きを活用して，学習計画を作成し，自立的に学習を進めている。
- ◆子供たちが学習時間を自由に活用できるように，複数の教科を組み合わせで行っている。



#### 学習の手引き

学習の手引きには，活動目標や標準時数，学習の流れ，学習に使用する学習材等が示されていて，子供たちの自立学習を支えるものとなっている。



#### 学習コース

子供たちが各教科の学習を個に応じた学習方法で進めることができるように，興味関心に応じて選択できる複数のコース（各単元につき2～4コース）が設定されている。子供たちは，自分が選択したコースの手引きを活用して，学習を進めており，上の写真のように，学習の進め方は様々である。



#### パッケージ化された教材

学習コースに対応して作られたプリントや視聴覚資料，掲示物等は，パッケージ化し，教材庫に保管してある。このような実践の積み重ねが，実践を下支えしている。

# 大日向小学校（イエナプランスクール）

～自立学習を中心とした授業（ブロックアワー）の実践～

## ●ポイント1●

### 子供たち自らが学習計画を作成

- ◆週初めに、子供たちは、グループリーダーから示された課題について、自分にふさわしいと思う時間帯を選び、1週間分の学習計画表（右図）を作成する。学習計画表も、子供たちが使いやすいように、改善を続けている。
- ◆子供たちの実態に合わせて、単元の内容を見通しをもって学ぶことができるように、チェック用の単元表も作成している。

9月 30日 ~ 10月 4日 年 名前 ( )

わたしのスケジュール

ワールドオリエンテーションテーマ：価値のものをさし（コミュニケーション）

2019/9/30月	2019/10/1火	2019/10/2水	2019/10/3木	2019/10/4金
じじサークル	がじ(絵画) 本創(絵画) 本創(絵画)	がじ(絵画) 本創(絵画) 本創(絵画)	てつがくサークル	読み聞かせサークル
ワールドオリエンテーション	ワールドオリエンテーション	ワールドオリエンテーション	ワールドオリエンテーション	ワールドオリエンテーション
外遊び・おやつ	外遊び・おやつ	外遊び・おやつ	外遊び・おやつ	外遊び・おやつ
読書の時間	読書の時間	読書の時間	読書の時間	読書の時間
作家の時間	作家の時間	作家の時間	作家の時間	作家の時間
音楽	音楽	音楽	音楽	音楽
おひるごはん・外遊び	おひるごはん・外遊び	おひるごはん	おひるごはん・外遊び	おひるごはん・外遊び
ワールドオリエンテーション	外国語活動	ワールドオリエンテーション	ワールドオリエンテーション	ワールドオリエンテーション
みんなであそぶ時間	みんなであそぶ時間	みんなであそぶ時間	みんなであそぶ時間	みんなであそぶ時間
サークル	サークル	サークル	サークル	サークル

大日向小学校 上学年児童の学習計画表

## ●ポイント2●

### 自立学習とインストラクション

- ◆子供たちは、自分の学習計画表に沿って、自立的に学習を進めていく。グループリーダーは、少数の子供たちを集めてインストラクションを行ったり、教室を巡回し、子供たちからの質問に答えたりしてい

る。【大日向小学校の子供たちの様子】

- ・個々の児童が何をすればよいのかを自覚しており、自立的に学んでいる。
- ・ファイルに学んだものを蓄積していて、自分の学びを振り返ることができている。
- ・自立学習を進める中にも、ゆるやかに協働する場面も生まれている。



インストラクションの様子



子供たちからの質問に答える教員

## ⑤ 学びの集団

- 多様な子供たち同士が関わり合う柔軟性のある集団づくりをしていますか。
- 互いの存在や違いを認め合う、居心地のよい集団になっていますか。

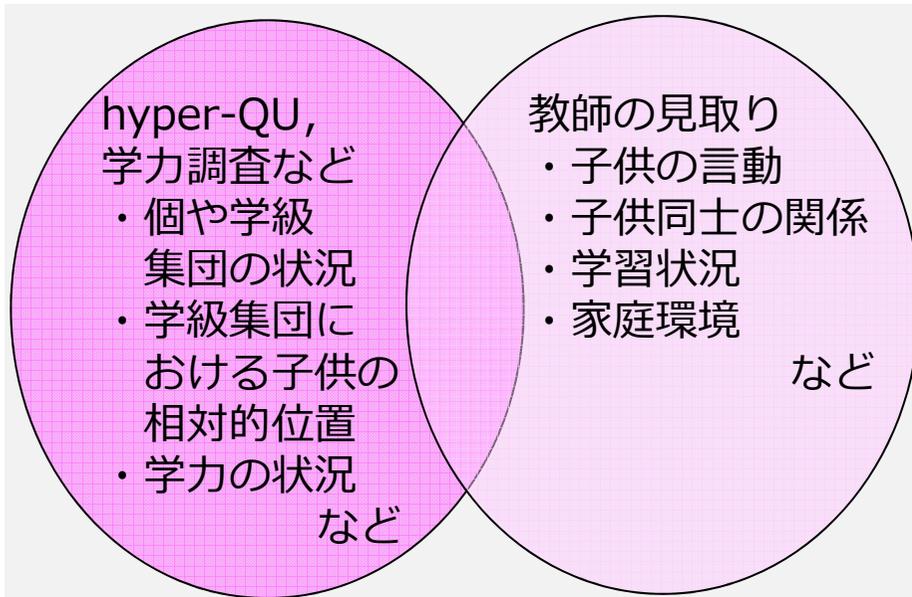
事例	概要
学級集団アセスメント	学級集団や個々の児童生徒の状態を可視化
大日向小学校	社会性を育む異学年によるグループ編成
上越市立大手町小学校	なかよし班(縦割り班)を活用した関係性づくり
上越教育大学(西川純研究室)	「一人も見捨てない」授業を通じた集団づくり

# 学級集団アセスメント

～学級集団や個々の児童生徒の状態を可視化～

## ●ポイント1●

hyper-QU等のアセスメントと  
教師の日常的な見取りの重ね合わせ



- ・教師の認識とのズレを把握
- ・要因分析
- ・解決のための手立ての実行

## ●ポイント2●

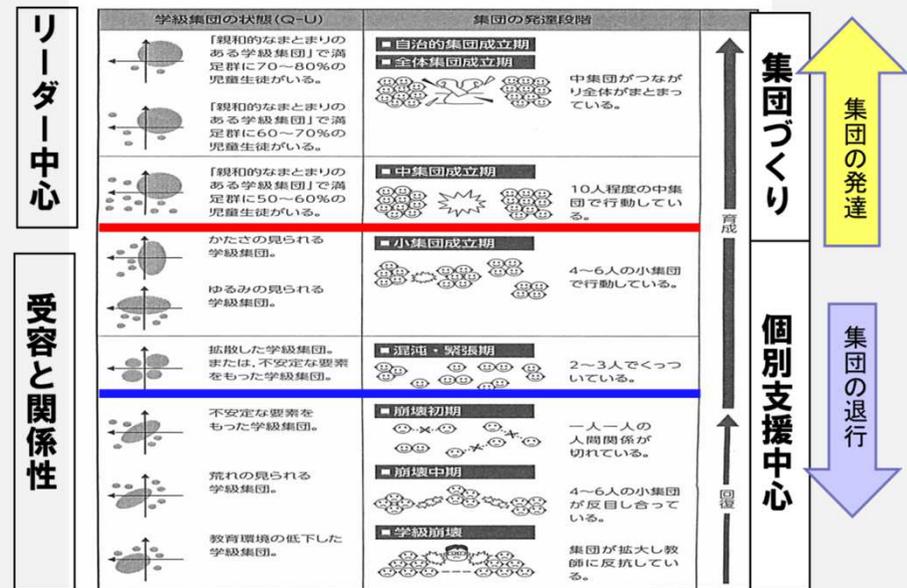
居場所づくり, 絆づくり

### ◆集団づくり

- ・構成的グループエンカウンター：関係性の構築
- ・ソーシャルスキルトレーニング  
：ルール, きまりの理解促進

### ◆SSR（スペシャルサポートルーム）の設置

集団の状態と発達段階の対応イメージ ～ 集団はつくるもの



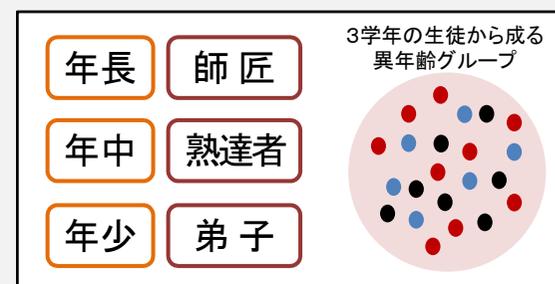
# 大日向小学校（イエナプランスクール）

～社会性を育む異学年（1～3年，4～6年）によるグループ編成～

## ●ポイント●

徒弟制をモデルにした異年齢グループによる教え合い，学び合い

◆イエナプランを提唱したペーターセンは，イエナ大学の実験校での経験から，三つの年齢からなる子供たちのグループが最も理想的であるとしている。また，年少・年中・年長の三つの年齢からなる子供たちの関係を，ヨーロッパの伝統的な徒弟制度に倣い，弟子・熟練者・師匠の関係であるとも言っている。



◆どの子にとっても安心・安全な場であるために，大日向小学校では，毎日，サークル対話が重ねており，問題が起きた時には，すぐに子供たち自身が自分たちの問題として話し合い，解決している。

### 【大日向小学校の子供たちの様子】

- ・年齢が異なる子供たちが一緒にいることで，個性や発達の違いが異なっていることが当たり前のものであり，受け入れられている。
- ・どの子供も，学習の進度や能力，関心に応じて学びを進めることが認められていて，教室では，一週間の計画表をもとに，教科書やプリント，タブレット等を活用して，自立学習を進めている。その中で，ゆるやかに協働する場面もあり，教え合い，学び合いする姿が見られる。
- ・年長の子供たちの，年中や年少の子供たちへの関わりが自然で，学習場面だけでなく，生活場面でもよい関係性ができている。



大日向小学校 1～3年の子供たち

# 上越市立大手町小学校

～なかよし班（縦割り班）を活用した関係性づくり～

## ●ポイント●

子供たちに委ね、子供たちが主体的に活動する縦割り班活動

### 【概要】

1班10名程度のなかよし班を3月末に編制し、入学式から運用している。年間を通して、各種行事や給食や遊び、掃除、学習などをなかよし班で行っている。子供たちに委ね、子供たちが主体的に活動することで、共生につながる関係性づくりが生まれている。

### ◆「なかよし学習」

毎週木曜日の5校時「なかよし学習」の時間を設けて、縦割り班での異学年学習を実施している。

1つの教室に3つのなかよし班が入り、それぞれの班ごとに学習を進めている。子供たちは、それぞれの学年の問題集を自主学習ですすめているが、自然と学年の枠を越えた教え合いも生まれている。

「なかよし学習」の時間だけでなく、縦割り班活動をした後は、各学年で振り返る時間を設けて、活動の振り返りを行っている。こうしたことを繰り返すことで、子供たちが主体的に活動できるようになっている。



「なかよし学習」

### ◆「なかよしDAY」

月に1回「なかよしDAY」を設けて、なかよし班と一緒に給食を食べたり、一緒に休憩時間を過ごしたり、掃除をしたりしている。

### ◆運動会や遠足などの各種行事

運動会や遠足、文化祭などの行事も、なかよし班で行っている。

遠足では、各学年が役割をもち、責任をもって活動できるようにしている。例えば、3年生はおやつ担当として、1、2年生を連れて近くのスーパーにおやつを買いに行く役割がある。また、6年生は、入学してすぐの1年生の手を引き、遠足に行っている。

文化祭では、畳2畳分のダンボールを用いて、大型の紙相撲をつくり、大紙相撲大会を行うなど、1つのものをみんなで協力してつくる体験をしている。

年間を通して、こういった活動を繰り返す中で、共生につながる関係性が生まれている。



遠足



文化祭(大紙相撲大会)

～「一人も見捨てない」授業を通した集団づくり～

### ●ポイント●

子供観：子供たちは有能である

学校観：学校では、多様な人と折り合いをつけて自らの課題を解決する力を付ける

#### ◆子供の多様性について

子供たちの能力は多様である。文部科学省の統計によれば、塾・予備校・通信教材・家庭教師で学んでいる子は、全体の3割程度を占めている。教室には、上記のような子の他に、教科書を読めば自力解決できる子、教師の説明で分かる子、教師の説明でも理解が難しい子がいる。こういった多様な子供たちがいる教室で、教師による一斉指導は難しいと考えている。そこで、多様な子供たちを教える場合の教え手として1人の教師より30人の子供たちの方が有能と捉えている。

#### ◆「一人も見捨てないことは得である」

教師は、子供たちに、「一人も見捨てないこと得である」ということを語り、子供たちに納得させる。ここでポイントなのは、「徳」ではなく「得」ということを語ること。

#### ◆子供たち集団を「2・6・2」で捉える

多様な子供たち集団を「2・6・2」で捉える。教師の指示に従う子が2割、反発する子が2割、その中間が6割と考える。そして、教師の指示に従う2割の子に、「一人も見捨ててはいけない」ということを繰り返し語る。2割の子が動き始めると、その動きをほめて、中間の6割の子を動かしていく。8割の子が動くと、残り2割の子も動き出す。このように集団を動かしていく。

#### ◆導入初期の授業イメージ

##### ①教師が課題を伝える（5分以内）

- ・「全員が自分の課題を達成するのが目標」と伝える。
- ・「分からないから教えて」と自分から動くことを推奨する。

##### ②「さあ、どうぞ」と促し、子どもが動く（40分以内）

- ・子供たちは、まず自分の課題を解く。
- ・徐々に、他の子に教える子、教えるために移動する子が出てグループが生まれていく。
- ・グループ同士の交流が始まり、多くの子供が課題を達成する。
- ・まだ課題を達成できない子をサポートする仲間が増えていく。

##### ③成果を振り返る（5分以内）

- ・「全員が自分の課題を達成」できたかどうかを振り返る。

教師の仕事は、目標の設定、評価、環境の整備であり、学習は子供たちに委ねるべきと考えられている。この考え方は、子供たちは有能であるという子供観からきている。

## ⑥ 学びの評価

- 子供たちの学びのプロセスを捉え、肯定的なフィードバックをしていますか。
- 子供たちが学びを振り返る機会を設定し、メタ認知を促進していますか。
- 各学校で育成すべき資質・能力の評価をしていますか。

事例	概要
さとえ学園小学校	ICTを活用した一人一人の学びのプロセスの評価
大日向小学校	「わたしプレゼン」を活用した学習者主体の懇談会
上越市立大手町小学校	資質・能力の評価をもとにしたカリキュラムマネジメント
資質・能力のAI評価	AIを活用した資質・能力(コンピテンシー等)の評価

# さとえ学園小学校

～ICTを活用した一人一人の学びのプロセスの評価～

## ●ポイント●

無料アプリ等を活用した学びのポートフォリオ, 形成的評価, 自己評価・相互評価

### ◆体験的な学び×ICT

ビオトープの改善というリアルな課題解決に  
プログラミング的思考を活用

～学年間の系統性・継続性を意識したカリキュラム編成



【3, 4年】  
ビオトープとは何か？  
生き物が住める環境とは？  
自分たちができることは？  
【5～6年】  
ビオトープを設計しよう！  
持続可能に管理するために。

### ◆学びのポートフォリオ

授業中の様子・ワークシート・板書等をiPad  
で撮影し, 気付きとともにEvernote等に保存

～ノートとiPadを個に応じた形で活用 (使い分け)



振り返りを入力する  
フォームを  
Googleフォーム  
で作成し, QR  
コードを提示

### ◆形成的評価, 自己評価・相互評価

・授業の初めに3段階のルーブリックを児童と共有

～S: 上級レベル A: 標準レベル B: 下位レベル

・教員は机間指導しながらリアルタイムで形成的評価

～Googleスプレッドシートにルーブリック評価を入力・教員  
間で共有

・授業の最後に振り返りを実施

～児童は自己評価及び相互評価し, Googleフォームに入力



児童は, タブレッ  
トを利用して, 振  
り返りを入力  
入力した内容は,  
いつでも閲覧可能

# 大日向小学校（イエナプランスクール）

～「わたしプレゼン」を活用した学習者主体の懇談会～

## ●ポイント●

学びの責任は子供にあり，その学びを支え励ますのが教員の役割

### 懇談会の流れ

#### ◆「わたしプレゼン」

子供たちは、「わたしプレゼン」として，自分のポートフォリオを用いて，これまでの学びについてプレゼンを行う。このように，自分自身の学びを振り返る機会を設定することで，メタ認知が促進され，自分の成長を感じることができるとともに，次への目標も明確になる。

#### ◆文章評価の通知表

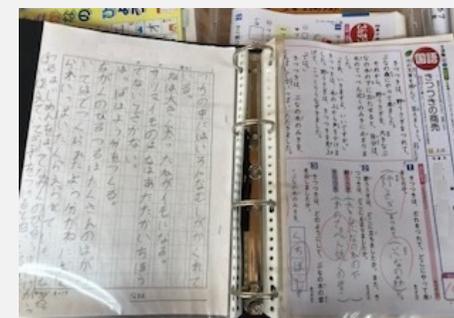
大日向小学校では，点数評価をせずに，「社会性，ワールドオリエンテーション，数学的思考・論理，言語，身体的活動，芸術的活動」の6観点で，文章で評価することにしている。そのため，子供たちの全人的な発達を促す評価が可能となる。また，こうした評価は，他の子供との比較ではなく，対象となる子自身の成長に目が向けられる。懇談会では，子供や保護者とともに，通知表を読むことにしている。

#### ◆次学期の目標設定

最後に，子供自身で次学期の目標を立てて，教員や保護者と共有する。

#### ポートフォリオづくり

ポートフォリオには，1週間に1回，自分がした仕事（学習）のうち，自分が誇りに思えるものを綴りこんでいく。そこには，書いた作文やプリントなど紙上の成果だけでなく，図工の作品や音楽の発表など紙上にならないものは写真等にして綴じていく。



大日向小学校児童のポートフォリオ

# 上越市立大手町小学校

## ～資質・能力の評価をもとにしたカリキュラムマネジメント～

### ●ポイント1●

#### 視覚的カリキュラムの作成・活用

#### ◆「探究」を中心にすえたカリキュラム

年間140時間実施する「探究」を中心に、単元同士の関連を視覚的に捉えることができる視覚的カリキュラムを作成している。

各領域間を資質・能力の関連として、矢印でつなぐことで他の領域で育成した資質・能力を「探究」で発揮することができる。

右表のように、問題解決を通して育成する資質・能力と発揮する資質・能力について設定し、2か月毎のカリキュラム評価に活用している。

				探究
4月	5月	6月		論理
				ことば
				創造
				自律

1 年間を通して発揮・育成する資質・能力 (探究力)

探究課題	ヤギの親子や共に活動する友達との関わり方と多様な自分の成長		
知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性	
<ul style="list-style-type: none"> <li>ヤギの親子の特徴や成長に関する知識</li> <li>ヤギの親子が育つ環境に関する知識</li> <li>ヤギの親子の命を守っていくために必要な知識・技能</li> <li>ヤギの親子や共に活動する友達との関わり方に対する気付きをまとめる方法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヤギの親子との関わりの中から、自分や友達と一緒にしてみたいことを見付ける。</li> <li>ヤギの親子への愛着や親しみの気持ち、飼育への責任感から命の大切さについて考えをもつ。</li> <li>自分単位の関わりからヤギの親子や共に活動する友達との関わり方について考えをつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヤギの親子や共に活動する友達とのよりよい関わり方について見つめる。</li> <li>楽しかった自分や嬉しかった自分、頑張った自分など多様な自分の成長について捉え、満足感や充実感、今後の生活への意欲をもつ。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と協力しながら、ヤギの親子の世話を続けたり、問題を解決したりする。(I～IV期)</li> <li>ヤギの親子や様々な人と関わり、つながりを広げる。(III～IV期)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヤギの親子と繰り返し関わり、愛着や親しみの気持ちをもつ。(I～II期)</li> <li>ヤギの親子や様々な人と関わるよさを絵本やすごろく、手紙、身体などで表現する。(I～V期)</li> <li>ヤギの親子が暮らすことについて、自分なりの考えをつくる。(III～V期)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験や活動を通して見付けたことや気付いたことを言葉で記述する。(I～V期)</li> <li>自分の考えを理由付けて伝えたり、仲間考えを受け止める。(I～V期)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>飼育に対して必要な情報を集めたり、集めた情報を整理したりして解決への見通しをもつ。(I～III期)</li> <li>自分の働きかけとヤギの親子の反応をつなげて考える。(III～IV期)</li> <li>以前の様子と比べて、予想を立てたりして、自分なりに試しながら関わり方を変化させる。(III～IV期)</li> </ul>
内省的思考			
<ul style="list-style-type: none"> <li>楽しかった自分や嬉しかった自分、頑張った自分など、多様な自分の成長について捉え、満足感や充実感、今後の生活への意欲をもつ。(V期)</li> </ul>			

### ●ポイント2●

#### 2か月ごとのカリキュラム評価

#### ◆プロセスに着目し、子供たちの姿を評価

学年部で2か月ごとに、「探究」の振り返る時間を設定し、子供たちの「探究」の様子を振り返り模造紙にまとめている。

こうしたカリキュラム評価をもとに、これから実施するカリキュラムを修正し、活動の質の向上につなげている。



# 資質・能力のA I 評価

～A I を活用した資質・能力（コンピテンシー等）の評価～

●ポイント●

- 一人一人の資質・能力の可視化・定量化と最適な学習方法等のフィードバック
- スマートフォンを使って五つの気質（潜在的な性格）と25のコンピテンシー（個人の行動特性）を測定
- 個に応じた学習の動機付けや最適な学習スタイル・グルーピング，成長ポテンシャル等を提案

## A i G R O W（潜在性格診断×360°コンピテンシー評価）

◆評価の実施はスマートフォン又はタブレットで簡単3ステップ



気質を示す代表的な特性5因子論「Big 5」を測定



世界で活躍するために必要とされる25のコンピテンシーを測定

課題設定	個人的実行力	表現力	組織への働きかけ
解決意向	自己効力	柔軟性	地球市民
論理的思考力	決断力・判断力	共感・傾聴力	組織へのコミットメント
創造性	耐性	情熱・宣教力	誠実さ

など



ゲーム感覚で表示される項目を指でタッチしながら分類

40～50分で測定終了

「個人レポート」を受領

- ・気質診断結果
- ・コンピテンシー測定結果
- ・コンピテンシープロフィール（学習の動機付け，学習スタイル等）
- ・コンピテンシーサマリー（自分の強み，潜在的な能力等）
- ・伸ばしやすいコンピテンシー

**AiGROW (igs)**  
<https://www.aigrow.jp/>

## ⑦校務支援・チーム学校

- 日常的に業務の効率化を意識して実践し、児童生徒に向き合う時間を確保していますか。
- 一人一人の学習や生活の状況等を全教職員で共有し、チーム学校として、個に応じた支援をしていますか。

事例	概要
世田谷区立桜丘中学校	教員と生徒が対等に話し合う、柔軟で正解のない教育実践
大阪市立滝川小学校	児童情報を学校全体で共有し、個に応じた組織的な支援 (ICTを活用した校務情報と学習情報の一元管理)

～教員と生徒が対等に話し合う，柔軟で正解のない教育実践～

## ●ポイント1●

取組の意図を明確にすること

### ◆校則廃止の意図

- 生徒自らがじっくり考えられる学校を目指す。何をすればいいのか，何が正しいのか，生徒自らが判断できるようにする。

### ◆一部の生徒だけではなく，全ての生徒が自由

- 自分が自由にしたいければ，他者の自由も尊重することが重要である。



**タブレットを使用する生徒**  
～「特例」ではなく，全ての生徒に認めると，最終的には，必要がある生徒（音声読み上げソフトを利用する，板書を写真で撮るなど）だけが利用をするようになる。

## ●ポイント2●

全教職員で価値観を共有し，素の姿で子供と接すること

### ◆全教職員で全ての生徒を見る

- 「違いがあるではなく，違うほうがいい」という価値観を全教職員で共有する。
- 生徒が好きな先生を指名して語り合える「ゆうゆうタイム」を年2回実施。



**職員室前の廊下も学びの場**  
～自分のペースで学習したい生徒や集団での学習になじめない生徒などが，教室以外でも学習できるようにしている。

# ● 大阪市立滝川小学校

～児童の情報を学校全体で共有し、個に応じた組織的な支援～  
(ICTを活用した校務情報と学習情報の一元管理)

## ●ポイント●

学校全体で子供の「いいところ」を共有して、評価や支援に活用

- 児童に関する校務情報と学習記録を集約・可視化できるシステムを活用（通知表、要録なども一元管理）
- 全教職員が、学年や学級の枠を越えて、子供の「いいところ」を日々入力、共有、声かけ
- 子供の「いいところ」が可視化でき、指導に生かせることで、教職員が積極的に活用

### 児童生徒ボード（校務情報と学習記録を可視化）

担任

全教職員

担任

養護教諭

担任

- ◆ 校務情報（出欠状況、保健室利用状況など）と学習記録（日々の学習評価、全国学力・学習状況調査の結果、学習アプリの記録など）を一元管理
- ◆ 日常所見は全教職員で入力するなど、学校全体で子供の「いいところ」を共有
- ◆ 校務情報と学力記録をつなぐことで、日常的に評価・支援
- ◆ 「心の天気で『雨』が続いている」、「連続3日以上欠席している」など、アラート機能を有し、不登校等の未然防止にも活用

○出欠情報：担任が学級で入力  
○心の天気：児童生徒が登校時に自分で入力

〔太字：校務系データ 細字：学習系データ〕

学習アプリ等での個々の学習記録が自動的に反映

統合型校務支援システムC4th (EDUCOM)  
<https://www.educom.co.jp/>

大阪市教育委員会報告資料(平成31年3月1日) 55

# 振り返り

- ◆自校の教育をアップデートするために、どんな視点を見いだしましたか。振り返って書いてみましょう。その際、21ページに記載の自校の取組も、併せて、振り返りましょう。

- ◆この提案についてのご意見・ご感想をお聞かせください。

【問い合わせ先】

広島県教育委員会事務局

個別最適な学び担当

[kyokobetsu@pref.hiroshima.lg.jp](mailto:kyokobetsu@pref.hiroshima.lg.jp)（右のQRコードからアクセスできます）



- ・広島県教育に関する大綱（H28.2）
- ・広島版「学びの変革アクション・プラン」（H26.12）
- ・広島県教育委員会主要施策実施方針（H29.2）
- ・キャロル・S・ドゥエック「マインドセット『やればできる！』の研究」（草思社）
- ・C.A.トムリンソン「ようこそ、一人ひとりをいかす教室」（北大路書房）
- ・リヒテルズ直子「オランダの個別教育はなぜ成功したのか」（平凡社）
- ・リヒテルズ直子「今こそ日本の学校に！イェナプラン実践ガイドブック」（教育開発研究所）
- ・坪谷ニューエル郁子「世界で生きるチカラ国際バカロレアが子どもたちを強くする」（ダイヤモンド社）
- ・東浦町立緒川小学校「個性化教育30年～緒川小学校の現在～」（中部日本教育文化会）
- ・西川純「人生100年時代を生き抜く子を育てる！個別最適化の教育」（学陽書房）
- ・西郷孝彦「校則なくした中学校たったひとつの校長ルール」（小学館）

- ・「小・中学校学習指導要領（平成29年告示）」（文部科学省）
- ・「Society 5.0 に向けた人材育成～社会が変わる，学びが変わる～」（文部科学省）
- ・「『未来の教室』ビジョン」（経済産業省）
- ・合田哲雄「学習指導要領の読み方・活かし方」（教育開発研究所）
- ・平川理恵「クリエイティブな校長になろう」（教育開発研究所）
- ・教育課程研究会「『アクティブ・ラーニング』を考える」（東洋館出版社）
- ・奈須正裕「資質・能力と学びのメカニズム」（東洋館出版社）
- ・田村学「カリキュラム・マネジメント入門」（東洋館出版社）
- ・吉田新一郎，岩瀬直樹「シンプルな方法で学校は変わる」（みくに出版）
- ・岩瀬直樹，寺中祥吾「せんせいのつくり方」（旬報社）
- ・岩瀬直樹「クラスがわくわく楽しくなる！子どもとつくる教室リフォーム」（学陽書房）
- ・苫野一徳「『学校』をつくり直す」（河出新書）
- ・苫野一徳「教育の力」（講談社）
- ・リヒテルズ直子，苫野一徳「公教育をイチから考えよう」（日本評論社）
- ・中川綾「あたらしいしょうがっこうのつくりかた」（ナガオ考務店）
- ・工藤勇一「学校の『当たり前』をやめた。」（時事通信社）
- ・中邑賢龍「育てにくい子は，挑発して伸ばす」（文藝春秋）
- ・伊藤史織「異才，発見！～枠を飛び出す子どもたち」（岩波新書）
- ・前屋毅「学校の面白いを歩いてみた」（エッセンシャル出版社）
- ・宮口幸治「ケーキの切れない非行少年たち」（新潮新書）
- ・奥地圭子「東京シューレ～子どもとつくる20年の物語～」（東京シューレ出版）
- ・奥地圭子「不登校という生き方 教育の多様化と子どもの権利」（NHKブックス）
- ・奥地圭子「フリースクールが『教育』を変える」（東京シューレ出版）
- ・新井紀子「AIvs.教科書が読めない子どもたち」（東洋経済新報社）
- ・赤堀侃司「AI時代を生きる子どもたちの資質・能力」（ジャムハウス）
- ・西川純「クラスと学校が幸せになる『学び合い』入門」（明治図書）
- ・西川純「気になる子への言葉がけ入門」（明治図書）
- ・西川純「子どもがむちゅうになる課題づくり入門」（明治図書）
- ・西川純「子どもたちのことが奥の奥までわかる見取り入門」（明治図書）
- ・木村泰子「『ふつうの子』なんて，どこにもいない」（家の光協会）

令和元年度に次の学校やフリースクール、NPO法人等を視察しています（一部は本提案に事例掲載）。キーワードやURLをご覧になって興味・関心があれば、個別最適な学び担当へご連絡ください。

都道府県	学校等名	キーワード	URL
新潟県	上越市立大手町小学校	文科省研究開発学校／探究	<a href="http://www.ohtemachi.jorne.ed.jp/">http://www.ohtemachi.jorne.ed.jp/</a>
新潟県	上越教育大学(西川純研究室)	『学び合い』	<a href="https://jun24kawa.jimdofree.com/">https://jun24kawa.jimdofree.com/</a>
埼玉県	さとえ学園小学校	EdTech／探究	<a href="http://www.satoe.ed.jp/">http://www.satoe.ed.jp/</a>
東京都	千代田区立麴町中学校	自立／EdTech	<a href="https://www.fureai-cloud.jp/kojimachi-j/">https://www.fureai-cloud.jp/kojimachi-j/</a>
東京都	世田谷区立桜丘中学校	自立／居場所づくり	<a href="http://www.setagaya.ed.jp/tsaka/">http://www.setagaya.ed.jp/tsaka/</a>
東京都	町田市立町田第五小学校	文科省研究開発学校／EdTech	<a href="http://www11.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1310169">http://www11.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1310169</a>
東京都	東京学芸大附属世田谷小学校	文科省研究開発学校／探究	<a href="http://www.setagaya-es.u-gakugei.ac.jp/">http://www.setagaya-es.u-gakugei.ac.jp/</a>
東京都	東京学芸大附属大泉小学校	文科省研究開発学校／国際バカロレア	<a href="http://www.es.oizumi.u-gakugei.ac.jp/">http://www.es.oizumi.u-gakugei.ac.jp/</a>
東京都	東京シューレ葛飾中学校	自立／居場所づくり	<a href="https://katsushika.shuregakuen.ed.jp/">https://katsushika.shuregakuen.ed.jp/</a>
東京都	ドルトン東京学園中等部・高等部	ドルトンプラン	<a href="https://www.daltonkyo.ed.jp/">https://www.daltonkyo.ed.jp/</a>
東京都	東京インターナショナルスクール	国際バカロレア	<a href="https://www.tokyois.com/tokyois/">https://www.tokyois.com/tokyois/</a>
東京都	東京コミュニティスクール	EdTech／探究	<a href="http://tokyocs.org/">http://tokyocs.org/</a>
東京都	Learning for All	自立／居場所づくり	<a href="https://learningforall.or.jp/">https://learningforall.or.jp/</a>
神奈川県	横浜市立中川西中学校	自立／居場所づくり	<a href="https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/nakagawanishi/">https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/nakagawanishi/</a>
神奈川県	聖ヨゼフ学園小学校	国際バカロレア	<a href="https://www.st-joseph.ac.jp/primary/">https://www.st-joseph.ac.jp/primary/</a>
石川県	金沢大学附属小学校	EdTech／探究	<a href="http://partner.ed.kanazawa-u.ac.jp/fusho/">http://partner.ed.kanazawa-u.ac.jp/fusho/</a>
長野県	大日向小学校	イエナプラン教育	<a href="https://www.jenaplanschool.ac.jp/">https://www.jenaplanschool.ac.jp/</a>
愛知県	東浦町立緒川小学校	個性化教育	<a href="http://www10.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=2310247">http://www10.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=2310247</a>
京都府	まなびのさき	自立／学び合い	<a href="https://manabinosaki.com/">https://manabinosaki.com/</a>
京都府	Studioあお	自立／探究	<a href="https://www.coleyo.info/">https://www.coleyo.info/</a>
大阪府	大阪市立滝川小学校	EdTech	<a href="http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=e511000">http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=e511000</a>
大阪府	香里ヌヴェール学院中学校・高等学校	EdTech／探究	<a href="http://www.seibo.ed.jp/nevers-hs/">http://www.seibo.ed.jp/nevers-hs/</a>
大阪府	N中等部, N高等学校	EdTech／探究	<a href="https://n-jr.jp/">https://n-jr.jp/</a>
鳥取県	岩美町立岩美中学校	EdTech／探究	<a href="https://www.torikyo.ed.jp/iwami-j/">https://www.torikyo.ed.jp/iwami-j/</a>
広島県	英数学館小学校	国際バカロレア	<a href="https://www.eisu-ejs.ac.jp/elementary/">https://www.eisu-ejs.ac.jp/elementary/</a>
佐賀県	龍谷中学校・高等学校	EdTech／探究	<a href="https://www.sagaryukoku.ed.jp/">https://www.sagaryukoku.ed.jp/</a>

用語	説明	出典	頁
個別最適な学び	文部科学省が示す「公正に『個別最適化された学び』」を踏まえた、広島県が考える学びの在り方の一つで、児童生徒一人一人の学習進度や能力、関心等に応じた、それぞれに最適な学びのことを指す。児童生徒一人一人に多様な学びの場を提供することで、基盤的な学力の習得も含め、主体的に学び続けることができている状態を目指している。 なお、文部科学省の資料を引用する場合は、「公正に『個別最適化された学び』」を用いる。		2
カリキュラム	本提案では、児童生徒の学びの総体のことを指す。例えば、毎年作成する教育課程（学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を児童の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した各学校の教育計画）、日々の授業、校内の組織、児童生徒が学んだことも含めた概念のことである。	大阪教育大学 田村知子教授資料	2
Society5.0	狩猟社会（Society1.0）、農耕社会（Society2.0）、工業社会（Society3.0）、情報社会（Society4.0）に続く新たな「超スマート社会」。 「超スマート社会」とは、「必要なもの・サービスを、必要な人に、必要なだけ提供し、社会の様々なニーズにきめ細かく対応でき、あらゆる人が質の高いサービスを受けられ、年齢、性別、地域、言語といった様々な違いを乗り越え、生き活きと暮らすことのできる社会」である。	「第5期科学技術基本計画」 （内閣府）	2
チーム学校	校長のリーダーシップの下、カリキュラム、日々の教育活動、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして能力を発揮し、子供たちに必要な資質・能力を確実に身に付けさせることができる学校。	「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について（答申）」（文部科学省）	7
イエナプラン教育	ドイツで始まり、オランダで広がった一人ひとりを尊重しながら自律と共生を学ぶ教育。	日本イエナプラン教育協会 ウェブページ	14
ワールドオリエンテーション	イエナプラン教育におけるワールドオリエンテーションは「イエナプランのハート」と呼ばれ、日々の学習の中心的な活動である。学校全体で取り組むテーマに沿って、教科横断的に学習を進める。実際に世界で起こっていることについて、教科学習で学んだことを活用し、グループの仲間と協力しながら総合的に学ぶ。	学校法人茂来学園 大日向小学校学校案内	14
学びのポートフォリオ	指導と評価の一体化を加速するとともに、児童生徒が自ら活用できるようにするために、EdTechを活用し、個人の学習状況等のスタディ・ログを電子化し、蓄積したもの。 EdTechとは、教育におけるAI、ビッグデータ等の様々な新しいテクノロジーを活用したあらゆる取組。	「Society5.0に向けた人材育成」 （文部科学省）	14
メタ認知	主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する能力、自らの思考の過程等を客観的に捉える力など。	「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（文部科学省）	16
しなやかなマインドセット	人間の基本的資質は努力しだいで伸ばすことができると信じること。うまくいかないときにこそ、粘り強い頑張りを見せることが特徴。	「マインドセット『やればできる!』の研究」（草思社）	21

用語	説明	出典	頁
SSR (スペシャルサポートルーム)	不登校を始め、集団学習になじめない児童生徒が、学校とのつながりを途切れないようにするため、校内に居場所をつくる取組。平成31年4月から県内の5市町5小学校・6中学校に設置。	「くりっぷvol.71」 (広島県教育委員会)	23
東大ROCKET in 広島	不登校をはじめ、学校における集団での学びになじめない児童生徒を対象に、体験活動を通して、知的好奇心を喚起し、社会とのつながりを促す教育プロジェクト。	「くりっぷvol.71」 (広島県教育委員会)	30
国際バカロレア (IB)	国際バカロレア機構(本部ジュネーブ)が提供する国際的な教育プログラム。1968年、チャレンジに満ちた総合的な教育プログラムとして、世界の複雑さを理解して、そのことに対処できる生徒を育成し、生徒に対し、未来へ責任ある行動をとるための態度とスキルを身に付けさせるとともに、国際的に通用する大学入学資格(国際バカロレア資格)を与え、大学進学へのルートを確保することを目的として設置。	文部科学省IB教育推進コン ソーシアムホームページ	30
国際バカロレア 初等教育プログラム (PYP)	IBでは、グローバル化に対応できるスキルを身に付けた人材を育成するため、生徒の年齢に応じた教育プログラムを提供しており、PYP(Primary Years Programme)は、3歳～12歳を対象とし、精神と身体の両方を発達させることを重視したプログラム。他に、11歳～16歳を対象としたMYP(Middle Years Programme)、16歳～19歳を対象としたDP(Diploma Programme)などがある。	文部科学省IB教育推進コン ソーシアムホームページ	30
ブロックアワー	イェナプラン教育におけるグループリーダー(担任)が、一週間の基本単位として、各教科の基礎的・基本的な学習やワールドオリエンテーションに必要な内容について課題を設定する。子供たちは、グループリーダーから示された課題について、どのように学ぶかを計画し、ここに合った方法で自立的に学ぶ。グループリーダーは、必要に応じて少人数のインストラクション(指導)を行う。	学校法人茂来学園 大日向小学校学校案内	38
hyper-QU	よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート。学校生活における児童生徒の意欲や満足感、および学級集団の状態を質問紙によって測定。「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」と「いざこちのよいクラスにするためのアンケート」から構成。	図書文化社ホームページ	43
構成的グループ・ エンカウンター	教師や同級生等から「尊重される、認められる、褒められる」体験を経ることで、自分のよいところや努力を周囲の仲間に評価されることを実感するとともに、自分を肯定的に評価でき、自尊感情をもてるようにする取組。	「言語力の育成方策について (報告書案)【修正案・反映版】」(文部科学省)	43
ソーシャルスキル・ トレーニング	人間関係についての基本的な知識、自分の意思を状況や雰囲気に合わせて相手に伝えること、対人問題の解決方法などについて説明を行い、また、ロールプレイングを通じて、グループの間で練習を行う。	「言語力の育成方策について (報告書案)【修正案・反映版】」(文部科学省)	43
ルーブリック	成功の度合いを示す数レベル程度の尺度と、それぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を示した記述語(評価規準)からなる評価基準表。	「学習評価に関する資料」 (文部科学省)	48

### ■ 第3 教育課程の実施と学習評価

#### 1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

各教科等の指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (6) 児童（生徒）が自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けるなど、児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習が促されるよう工夫すること。

### ■ 第4 児童（生徒）の発達の支援

#### 1 児童（生徒）の発達を支える指導の充実

教育課程の編成及び実施に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (4) 児童（生徒）が、基礎的・基本的な知識及び技能の習得も含め、学習内容を確実に身に付けることができるよう、児童（生徒）や学校の実態に応じ、個別学習やグループ別学習、繰り返し学習、学習内容の習熟の程度に応じた学習、児童（生徒）の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れることや、教師間の協力による指導体制を確保することなど、指導方法や指導体制の工夫改善により、個に応じた指導の充実を図ること。

その際、第3の1の（3）に示す情報手段や教材・教具の活用を図ること。

### ■ 「課題発見・解決学習」の単元計画を見直す視点 (例)

- 目標に迫る問いを、児童生徒から引き出せているか。
- 児童生徒に課題解決の見通しをもたせているか。(既存の知識や経験, 他教科等の既習事項の活用等)
- 児童生徒にとって、課題解決に向かう必然性のある学習活動となっているか。
- 児童生徒の深い学びを実現するための指導の工夫が行われているか。
- 目標に向かって児童生徒の深い学びが実現していく姿を具体的にイメージできているか。
- 児童生徒が、自らの見方・考え方の高まりや学習の仕方を振り返ったり、それらを活用できる場面を考えたりする「振り返り」の場が設定されているか。 など

### ■ 日頃の授業を見直す視点 (例)

- 児童生徒の学習意欲を喚起させるような導入の工夫が行われているか。
- 教師が話し過ぎず、児童生徒が自ら思考し、表現できるような言語活動を充実させているか。
- 目標を達成させるために必要な協働的な学びの場を適切に設定しているか。
- 多様な考えを引き出す問いの工夫が行われているか。
- 本時の目標に対応したまとめを自分の言葉で表現させているか。
- 本時の目標を達成することができないと予想される児童生徒に対して、効果的な手立てを講じているか。 など